

## パート 6

### 社会との関係深化と推進機能の強化の状況

(裏白紙)

Q601. 研究者の社会リテラシー（研究と社会との関わりについての認識）を向上する取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年		
		1	2	3	4	5	6															回答者 合計(人)	
大学・公的研究機関グループ	85	97	339	576	411	198	48	1,669	4.5	3.2	4.5	4.5	4.5	-	-	-0.04	0.00	-	-	-0.04			
大学等	69	79	269	482	357	175	44	1,406	4.6	3.3	4.6	4.6	4.6	-	-	-0.01	-0.01	-	-	-0.01			
公的研究機関	16	18	70	94	54	23	4	263	4.0	2.8	4.1	4.0	4.0	-	-	-0.19	0.01	-	-	-0.18			
イノベーション俯瞰グループ	74	44	182	183	88	14	1	512	3.4	2.4	3.6	3.4	3.4	-	-	0.03	0.01	-	-	0.04			
大企業	32	5	61	59	29	1	0	155	3.5	2.6	3.7	4.8	3.5	-	-	0.05	-0.05	-	-	0.00			
中小企業・大学発ベンチャー	26	18	31	47	14	0	1	111	3.1	2.2	3.6	4.5	3.1	-	-	-0.12	0.16	-	-	0.03			
中小企業	20	6	17	22	8	0	0	53	3.2	2.4	3.6	3.1	3.0	-	-	-0.11	0.19	-	-	0.08			
大学発ベンチャー	6	12	14	25	6	0	1	58	3.0	2.0	3.5	4.5	3.0	-	-	-0.13	0.12	-	-	-0.01			
橋渡し等	16	21	90	77	45	13	0	246	3.5	2.4	3.6	4.9	3.4	-	-	0.09	-0.03	-	-	0.06			
男性	138	123	474	680	449	196	46	1,968	4.3	3.0	4.3	5.7	4.3	-	-	0.00	0.01	-	-	0.01			
女性	21	18	47	79	50	16	3	213	4.1	2.9	4.2	5.5	4.1	-	-	-0.15	-0.07	-	-	-0.22			
社長・役員、学長等クラス	39	28	112	132	51	15	1	339	3.5	2.5	3.7	4.8	3.4	-	-	0.08	0.00	-	-	0.08			
部長、教授クラス	61	47	223	296	195	77	14	852	4.2	2.9	4.2	5.6	4.1	-	-	0.00	0.05	-	-	0.05			
主任研究員、准教授クラス	36	37	129	215	167	74	23	645	4.6	3.3	4.5	6.0	4.7	-	-	-0.01	-0.10	-	-	-0.10			
研究員、助教クラス	19	27	41	98	79	46	11	302	4.7	3.5	4.7	6.3	4.7	-	-	-0.13	0.16	-	-	0.04			
その他	4	2	16	18	7	0	0	43	3.4	2.6	3.7	4.7	3.0	-	-	0.43	-0.03	-	-	0.40			
任用あり	51	43	184	245	139	66	10	687	4.1	2.8	4.1	5.5	4.2	-	-	0.02	-0.10	-	-	-0.08			
任用なし	108	98	337	514	360	146	39	1,494	4.3	3.0	4.3	5.8	4.3	-	-	-0.04	0.05	-	-	0.02			
業務内容別	1	4	34	48	28	11	0	125	4.1	3.0	4.2	5.5	4.1	-	-	-0.05	0.06	-	-	0.01			
学長・機関長等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
現場研究者	80	84	280	484	342	167	43	1,400	4.5	3.3	4.5	6.0	4.6	-	-	-0.05	0.00	-	-	-0.05			
大規模Pの研究責任者	4	9	25	44	41	20	5	144	4.7	3.4	4.8	6.2	4.7	-	-	0.08	-0.01	-	-	0.07			
国立大学等	46	51	190	340	259	124	37	1,001	4.7	3.4	4.6	6.1	4.6	-	-	0.03	-0.02	-	-	0.02			
私立大学	4	9	17	26	16	10	3	81	4.2	2.8	4.3	5.9	4.3	-	-	-0.10	0.07	-	-	-0.03			
私立大学	19	19	62	116	82	41	4	324	4.5	3.3	4.5	5.9	4.6	-	-	-0.13	0.02	-	-	-0.11			
第1グループ	9	12	48	67	64	35	12	238	4.8	3.3	4.8	6.3	4.7	-	-	0.13	0.01	-	-	0.14			
第2グループ	23	21	46	112	94	42	7	322	4.7	3.5	4.7	6.1	4.7	-	-	0.00	-0.03	-	-	-0.03			
第3グループ	14	20	75	129	79	29	12	344	4.3	3.1	4.3	5.7	4.4	-	-	-0.13	0.10	-	-	-0.03			
第4グループ	22	23	88	165	106	59	10	451	4.5	3.4	4.5	6.0	4.6	-	-	0.01	-0.05	-	-	-0.04			
理学部局分野	9	11	30	70	48	25	5	189	4.6	3.5	4.6	6.1	4.7	-	-	-0.12	0.10	-	-	-0.01			
工学	26	20	71	119	114	66	19	409	4.9	3.5	4.9	6.4	5.0	-	-	-0.01	-0.04	-	-	-0.05			
農学	8	8	32	63	43	17	4	167	4.5	3.4	4.5	5.9	4.5	-	-	-0.06	0.06	-	-	0.01			
保健	22	27	89	149	84	31	8	388	4.1	3.0	4.2	5.5	4.2	-	-	-0.02	-0.02	-	-	-0.04			
産学官連携活動あり(過去3年間)	53	35	149	150	81	13	1	429	3.5	2.5	3.7	4.9	3.4	-	-	0.02	0.07	-	-	0.09			
なし	21	9	33	33	7	1	0	83	3.0	2.3	3.3	4.4	3.2	-	-	0.08	-0.26	-	-	-0.18			
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	30	17	73	76	34	1	0	201	3.3	2.4	3.6	4.7	3.2	-	-	0.09	0.05	-	-	0.14			
なし・分らない	41	13	55	49	20	6	1	144	3.4	2.4	3.5	4.7	3.4	-	-	-0.07	0.01	-	-	-0.06			
全回答者(属性無回答を含む)	159	141	521	759	499	212	49	2,181	4.2	3.0	4.3	5.7	4.3	-	-	-0.02	0.00	-	-	-0.01			

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q601. (意見の変更理由)研究者の社会リテラシー(研究と社会との関わりについての認識)を向上する取組が十分に行われていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	3	5	2	取組みが増えた(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
2	4	5	1	様々な取組みが行われていると考えられる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
3	3	4	1	意識的に行われていると感じるようになった(大学,部長・教授等クラス,男性)
4	2	3	1	前回よりは進んでいる。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
5	3	4	1	人文・社系学科と自然科学系学科の学際的な研究交流の機会が増えてきている。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
6	4	5	1	様々な取組みが行われていると考えられる。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
7	4	5	1	不祥事などがあつたFDが増えました。元々それくらいあつた方が良かった。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	本学をはじめ,リテラシー教育が充実しはじめている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
9	3	4	1	研究倫理教育の機会が確保されている(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1	全体的には向上しつつあるが不十分。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
11	1	2	1	すこしずつ増えてきた(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
12	2	3	1	「象牙の塔」からの「脱皮」傾向にはある(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
13	1	2	1	人文と科学技術の実際連携事例は,あまり見受けられない。人文と企業,人文と起業家の研究テーマはある。社会として現象化したレベルでの研究になる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
14	2	3	1	評価の仕組み等取組みが進んできたと感じる。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
15	2	3	1	協業が増えているため(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	3	3	0	むしろ文科省が取り組むべき課題。(大学,その他,男性)
17	3	3	0	理系のサイエンス・カフェに倣って,文系でもリテラカフェが開催されている。異分野融合の科目やキャリアパス形成に関する授業等も増加している。しかし,取組の拡張・展開には至っていない。(大学,第2G,理学,その他,男性)
18	2	2	0	その様な取組み自体がいまだ乏しい(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
19	1	1	0	意識改革が必要です。学際連携の重要性が浸透していません。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
20	6	6	0	米国と同様に研究者の自己宣伝が過剰(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
21	2	2	0	研究分野により,状況は大きく異なるだろう。たとえば,AIの分野はこの様な取組みが極めて盛んだが,他の分野は圧倒的に少ない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
22	3	3	0	インターンシップ制度もこの取組みに入ると考えました。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
23	2	1	-1	理工系より人文系の方が酷いことが最近よく分かった。(大学,部長・教授等クラス,男性)
24	4	3	-1	取組みは行われているが,研究者への意識を変えるほどの効果が無い(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	2	1	-1	社会知らず,世間知らずの研究者が極めて多いと思う。研究者の資質として仕方無いことかもしれない。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
26	3	2	-1	こうした取組みは研究支援者等が自己組織点検としてやるべきと思うが,できているとは思えない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	3	2	-1	大学で無関心の先生が多い。それ以前に,倫理を守らない,不祥事が多すぎる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
28	3	2	-1	大学&企業の連携もありますが,同じ大学の中で,理系&文系の交流もほとんどないように思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
29	2	1	-1	ゆがんだ形で進んでいるように思える。真の研究者教育になっていないのではないかと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
30	4	2	-2	基礎科学系,心理系などは不十分だと思う(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
31	5	3	-2	前回の回答は,日本全体ではなく本学の状況であつた。(大学,第4G,社長・学長等クラス,女性)
32	5	3	-2	必要性を認識しつつも,研究現場への取組要請が過剰と思われる。負担に思いながら取組ものではないはず。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
33	4	2	-2	社会に対して自らの言葉で語れない研究者が多い(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q602. 科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制度的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分から ない	6点尺度回答者数(人)						回答者 合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	173	188	452	533	274	104	30	1,581	3.7	2.4	3.8	5.1	3.7	3.7	3.7	-	-0.07	0.00	-	-	-0.06		
大学等	140	149	365	455	243	96	27	1,335	3.8	2.5	3.9	5.2	3.8	3.8	3.8	-	-0.06	0.01	-	-	-0.05		
公的研究機関	33	39	87	78	31	8	3	246	3.1	2.1	3.3	4.6	3.3	3.1	3.1	-	-0.13	-0.04	-	-	-0.16		
イノベーション俯瞰グループ	91	63	210	160	50	11	1	495	2.9	2.1	3.1	4.4	2.9	3.0	2.9	-	0.03	-0.02	-	-	0.05		
大企業	33	11	64	60	16	3	0	154	3.2	2.4	3.4	4.5	3.1	3.3	3.2	-	0.14	-0.09	-	-	0.02		
中小企業・大学発ベンチャー	32	13	46	36	10	0	0	105	2.8	2.1	3.1	4.2	2.9	2.7	2.8	-	-0.22	0.11	-	-	-0.10		
中小企業	21	6	23	19	4	0	0	52	2.8	2.2	3.1	4.2	3.1	2.6	2.8	-	-0.45	0.20	-	-	-0.25		
大学発ベンチャー	11	7	23	17	6	0	0	53	2.8	2.1	3.1	4.3	2.8	2.8	2.8	-	-0.04	0.05	-	-	0.01		
橋渡し等	26	39	100	64	24	8	1	236	2.9	2.0	3.0	4.3	2.8	2.9	2.9	-	0.08	-0.03	-	-	0.05		
男性	228	232	590	631	292	105	28	1,878	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	3.5	3.5	-	-0.04	0.00	-	-	-0.04		
女性	36	19	72	62	32	10	3	198	3.5	2.4	3.5	4.9	3.5	3.5	3.5	-	-0.03	0.04	-	-	0.01		
社長・役員・学長等クラス	42	47	133	109	42	5	0	336	3.0	2.1	3.2	4.4	3.1	3.1	3.0	-	-0.01	-0.13	-	-	-0.14		
部長・教授クラス	85	97	272	283	118	50	8	828	3.5	2.3	3.6	4.8	3.5	3.4	3.5	-	-0.04	0.03	-	-	-0.01		
主任研究員・准教授クラス	89	68	159	205	108	38	14	592	3.8	2.5	3.9	5.2	3.8	3.8	3.8	-	-0.01	-0.03	-	-	-0.04		
研究員・助教クラス	41	34	77	85	53	22	9	280	3.9	2.4	3.9	5.4	3.8	3.7	3.9	-	-0.09	0.19	-	-	0.10		
その他	7	5	21	11	3	0	0	40	2.6	2.1	2.9	3.9	2.6	2.5	2.6	-	-0.05	0.05	-	-	0.01		
雇用形態	81	79	219	218	106	32	3	657	3.4	2.3	3.6	4.8	3.4	3.5	3.4	-	0.05	-0.09	-	-	-0.04		
任期なし	183	172	443	475	218	83	28	1,419	3.6	2.4	3.7	4.9	3.6	3.5	3.6	-	-0.08	0.04	-	-	-0.04		
業務内容別	2	14	42	41	23	4	0	124	3.4	2.3	3.6	4.8	3.4	3.3	3.4	-	-0.13	0.05	-	-	-0.07		
学長・機関長等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
現場研究者	161	155	375	445	223	92	29	1,319	3.7	2.4	3.8	5.1	3.8	3.7	3.7	-	-0.05	0.00	-	-	-0.05		
大規模Pの研究責任者	10	19	35	47	28	8	1	138	3.6	2.4	3.9	5.1	3.8	3.6	3.6	-	-0.21	0.04	-	-	-0.17		
国立大学等	95	108	259	327	175	62	21	952	3.8	2.5	3.9	5.2	3.8	3.8	3.8	-	-0.03	-0.03	-	-	-0.06		
公立大学	9	9	21	27	9	8	2	76	3.8	2.5	3.8	5.0	3.5	3.6	3.8	-	0.10	0.15	-	-	0.25		
私立大学	36	32	85	101	59	26	4	307	3.8	2.5	3.9	5.3	3.9	3.7	3.8	-	-0.19	0.11	-	-	-0.08		
大学グループ	23	21	57	75	48	15	8	224	4.0	2.7	4.1	5.5	4.0	4.0	4.0	-	-0.01	0.07	-	-	0.06		
第1グループ	42	30	82	106	55	24	6	303	3.9	2.6	4.0	5.3	4.0	4.0	3.9	-	0.01	-0.11	-	-	-0.09		
第2グループ	32	44	96	115	47	19	5	326	3.5	2.3	3.7	4.8	3.5	3.3	3.5	-	-0.17	0.14	-	-	-0.02		
第3グループ	40	48	114	147	82	35	7	433	3.8	2.5	4.0	5.3	3.9	3.9	3.8	-	-0.05	-0.05	-	-	-0.10		
第4グループ	32	17	46	55	31	14	3	166	3.9	2.6	3.9	5.3	3.8	3.8	3.9	-	-0.03	0.06	-	-	0.02		
理学部局分野	43	47	81	131	77	40	16	392	4.2	2.7	4.2	5.8	4.2	4.1	4.2	-	0.00	0.02	-	-	-0.01		
工学	12	15	51	59	26	10	2	163	3.6	2.5	3.8	4.9	3.8	3.8	3.6	-	0.00	-0.13	-	-	-0.13		
農学	43	46	117	127	53	20	4	367	3.4	2.3	3.6	4.8	3.5	3.4	3.4	-	-0.07	0.01	-	-	-0.07		
保健	66	51	174	132	47	11	1	416	3.0	2.2	3.2	4.4	2.9	3.0	3.0	-	0.07	0.01	-	-	0.09		
産学官連携活動あり(過去3年間)	25	12	36	28	3	0	0	79	2.6	2.0	2.9	4.0	2.9	2.7	2.6	-	-0.16	-0.19	-	-	-0.35		
なし	39	24	83	62	21	2	0	192	2.9	2.1	3.1	4.3	2.9	3.0	2.9	-	0.15	-0.13	-	-	0.02		
大学・公的研究機関等 知財活用(企業等)	46	15	60	46	15	3	0	139	3.0	2.2	3.2	4.4	3.1	2.9	3.0	-	-0.21	0.15	-	-	-0.06		
なし・分からない	264	251	662	693	324	115	31	2,076	3.5	2.3	3.6	4.9	3.5	3.5	3.5	-	-0.04	0.00	-	-	-0.04		
全回答者(属性無回答を含む)																							

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q602. (意見の変更理由)科学技術の社会実装に際しての倫理的・法制度的・社会的課題を解決するための、人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が十分に行われていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	3	4	1	より積極的に行っている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
2	2	3	1	文理融合に向けた取り組みが徐々ではあるが増えている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
3	3	4	1	意識的に行われていると感じるようになった(大学,部長・教授等クラス,男性)
4	2	3	1	理系と文系の協調が進みつつある(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	FDを通じて,大学関係者も倫理的・法的な知識を得てきつつある。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
6	2	3	1	E-learningなどの取り組みが増えている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
7	2	3	1	十分ではないが,徐々に取組まれるようになっていく。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
8	3	4	1	前回よりは進んでいる。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
9	3	4	1	より積極的な取組を行っている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
10	3	4	1	本件に関する情報が個人レベルまで発信されて来た。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1	有意義な研究倫理セミナーが行われた。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
12	2	3	1	人文・社会科学と自然科学の連携が徐々に始まっている様に感じている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	少しそのような方向に行っていると思う。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
14	1	2	1	大型の研究費には,人文・社会科学及び自然科学の連携による取組が盛り込まれていると評価されるようになったと聞か ら。しかし,学生宿舎位の時点から様々な人材に触れるような仕組みを作り,様々な学問分野に知り合いがいるような,人材育 成を考えるべきであり,不十分。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
15	3	4	1	工学系の学会で,人文・社会科学との連携の話題が以前よりもよく出るようになったと感じます。よい傾向です。(民間企業等, 部長・教授等クラス,男性)
16	1	2	1	少しずつ増えてきていると認識している(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	1	2	1	研究者に対する人事制度に変化があることを聞いた。研究開発には時間を要するが故に,短期的評価を基にした人事評価 には適合しない。それらから研究開発対象者を外すことで,より業務に集中できる環境を整備するといった動きがある。(民間企 業等,部長・教授等クラス,男性)
18	4	4	0	変容する国際社会とも共有する姿勢が必要であるとますます感じます。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
19	3	3	0	研究のための体制はよくできていますが,成果は論文に留まる物が多いように感じます。論文で評価することの課題ではない でしょうか。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	3	3	0	医療事故などについては改善しつつあります。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
21	1	1	0	人文・社会科学系の教員の無能と無関心が大きな問題である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
22	2	2	0	人文・社会科学からのアプローチが不足。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
23	2	2	0	産業政策と地域おこしが同列に議論されていないか,制度ができて無理矢理マッチング感がある(公的研究機関,部長・教 授等クラス,男性)
24	4	4	0	人文社会にそのような研究者がどれだけ存在するか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
25	2	2	0	社会実装における人文・社会科学及び自然科学の連携は,余り見かけない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
26	2	2	0	日本だけでなく,海外の事例も参考にすべきだと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
27	2	2	0	すべきという意識は高まっている。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
28	3	2	-1	サイエンスコミュニケーションの重要性を文系,理系ともに認識すべき。(大学,部長・教授等クラス,男性)
29	3	2	-1	戸惑いが見られる。正しい取組について議論されるべき。(大学,部長・教授等クラス,男性)
30	3	2	-1	必ずしも人文分野と科学技術分野の相互理解が十分でない。以前より悪くなったのではと感じる。(大学,その他,男性)
31	3	2	-1	研究者倫理や倫理教育の機会は着実に増加している。しかし人社会系と理工系の連携による取組にはなっていない。(大 学,第2G,理学,その他,男性)
32	3	2	-1	科学技術の進歩に対する社会の姿勢には一貫性がなく,このことは文理の連携による取り組みが少ないことを意味している 気がします。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
33	4	3	-1	時間が取れなくて連携がうまくできなかった。対策を考え中(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
34	2	1	-1	そのような取り組みを聞かないので。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
35	3	2	-1	自然科学に対する人文・社会分野の歩み寄りがまったく認められないように思うため(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授 クラス,男性)
36	3	2	-1	利益相反などの規定整備がまだ行われていないため。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
37	2	1	-1	北米などと比べて,社会科学系の研究者と科学技術系の研究者の距離が大きいと感じる。それが近づく気配も全く見えな い。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
38	3	2	-1	医学生物学分野での倫理教育は少し改善されてきているが,人文・社会科学分野での啓蒙も喫緊の課題である。(公的研究 機関,部長・教授等クラス,男性)
39	5	4	-1	自然科学分野の研究者の関心,あるいは関心の育成が不十分。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)

40	2	1	-1	技術的に優れていてもそれを社会実装するための取り組みの遅滞により,科学技術に投じた資金が水泡に帰しているケースが多いのが実情ではないでしょうか。自動車の自動運転も,技術は完成したとしても社会的実装という側面で結局は諸外国の後塵に拝することになると思います。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
41	3	2	-1	人文・社会科学及び自然科学の連携をさせるならば,大学まかせにするのではなく,そのための予算をつけるべき。自らの信念ではなく,予算で動く大学も情けないが,動かそうとするのであれば,予算をつけてでもやるべき。国家プロジェクトでの失敗の原因はこれだった。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
42	6	4	-2	技術が主導する社会の変化に対して,人文・社会科学の専門家が十分に追いつけていない。法律などの分野では実務家の方が先行している傾向も見取れる。(大学,第2G,主任研究員・准教授クラス,男性)
43	5	3	-2	行なわれているように思っていたが,成果と取り組みが目に見えてこなくなったように思う。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
44	4	2	-2	研究者本人に任せすぎている。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
45	4	2	-2	前回の回答は,日本全体ではなく本学の状況であった。(大学,第4G,社長・学長等クラス,女性)
46	5	3	-2	インターネット上でのいじめや犯罪など,まだまだ不十分だと感じるところが多数あるため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
47	3	1	-2	政府の人文・社会科学軽視政策によって取り組みが十分にできなくなっている(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)





Q603. (意見の変更理由)科学技術イノベーションと社会との関係について、多様なステークホルダー(研究者、国民、メディア等)が双方向で対話・協働することにより、政策形成や知識創造に結びつけるための取組が十分に行われていると思いますか。

2017	2018	差	
1	2	4	2 最近は、国等が主催する各種会議等が行われるようになったと思う。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
2	1	3	2 事例を知るに至った(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
3	2	4	2 社会連携活動強化を図っているため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
4	1	3	2 定期的な公的研究機関の情報公開や産学官連携の取り組みなどを実施しており,十分ではないかもしれないが,取り組む努力はしている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
5	3	4	1 意識的に行われていると感じるようになった(大学,部長・教授等クラス,男性)
6	2	3	1 ある程度は進んできたと思います。(大学,部長・教授等クラス,男性)
7	2	3	1 十分ではないが,徐々に取組まれるようになっていく。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1 そのような努力は進んでいる。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
9	2	3	1 市民が参画する企画や機会は増えているように思う。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
10	2	3	1 シンポジウム開催増加(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
11	2	3	1 医療・AI分野で少し動きがあると思われます。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
12	3	4	1 分野,研究テーマによっては活発に行われていると思われる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	2	3	1 広報活動がより活性化したので。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	4	5	1 学会等のイベントを見ても,浸透してきたと実感する。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
15	2	3	1 仕組みの検討が行われている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
16	2	3	1 報道関係分野で,科学技術を理解している人が増えてきており,メディアもわかりやすい情報発信が少しづつであるが進歩していると感じる。(公的研究機関,その他,男性)
17	1	2	1 ステークホルダーの選定には,課題あり(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	1	2	1 専門家レベルのみの助言で果たして十分なのか,議論が必要.科学は市民にも随時双方向で情報公開・進捗・評価が必要である.特に市民から見た意見を,ただの意見で終わらせるのではないように,政府レベルで発信マネジメントできる議長制度が必要.(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
19	2	3	1 政府のソサエティー5.0や,未来社会からのバックキャストの手法が広がっている(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
20	2	2	0 研究者,国民,メディア等の人々が,双方向で対話・協働する経験を積んでいない.初等・中等教育の段階から,それを経験させることが必要と思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
21	2	2	0 大学の授業にもあってほしい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
22	2	2	0 JSTの科学技術コミュニケーション推進事業がもっと拡大するとよいと思います。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
23	2	2	0 例えば政府管掌大型プロジェクトの成果広報が,一般向けに十分行われていないために多様なステークホルダーによる対話も起こりにくい。(大学,その他,男性)
24	1	1	0 市民参画型の取組は未整備である。(大学,第2G,理学,その他,男性)
25	3	3	0 一部の人材に偏っている。(大学,第2G,保健,社長・学長等クラス,男性)
26	1	1	0 研究者は自分の研究を褒めてもらいたいと思っているけれどそれ以上のことは殆ど無い.多様なステークホルダー(研究者,国民,メディア等)が双方向で対話・協働するなどということは夢のまた夢である。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
27	2	2	0 COCやCOC+による努力は認められるが,大学が一致団結してそれを実現しようとしているようには見えないため(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	1	1	0 本学でそんな企画を耳にしたことはない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	2	2	0 もっと盛んにしなければならない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
30	2	2	0 社会科学系研究者の活動がほとんど見えない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
31	2	2	0 対話らしい機会は増えているが,主張し合いに陥るケースが多くないか,コーディネーターが不足。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
32	5	5	0 言いばなしの会議をしても意味がない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
33	2	2	0 十分ではない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
34	2	2	0 大学が何を研究しているのか,国民も市民も知らないのではないのか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
35	3	3	0 枠は多いが,総論コメントが多く,実効性のある行動が生まれているかは大いに疑問(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
36	2	2	0 難しいことのように思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
37	2	1	-1 具体的に見えていない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
38	2	1	-1 科学技術が社会に与えるインパクトを考えると,政策形成に結びつけるために豊富な科学的なバックグラウンドをもつ議員を国会に送り込む必要を感じます。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
39	4	3	-1 不祥事があると遮断される傾向にある.そういうことを想定した一体的な取り組みが必要かも.社会的には今更感があるが,大学のリスクマネジメントはこれからかも。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)

40	2	1	-1	産業界の意向のみが尊重される傾向にあり,あまり好ましいといえない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
41	3	2	-1	地域格差が進むなか,社会の課題が複雑化しており,より困難になっている状況である.政策形成に結びつく段階には至らない。(大学,第4G,工学,社長・学長等クラス,女性)
42	4	3	-1	対話・協働は不十分(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
43	3	2	-1	まだまだ限られた人のみが行っている印象です.質の高いメディアが増えると,良いように思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
44	4	3	-1	狭義の研究不正に対してだけではなく,広義の公正研究開発に関するより早期からの教育が必要である。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
45	5	4	-1	十分と言えば十分だが,方向性がおかしいまま行われているものもありどうかと思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
46	3	2	-1	実質的な議論が活発とはいえない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
47	4	3	-1	フレームの検討はなされるが,実務,実働部隊の整備,予算手当が不十分。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
48	2	1	-1	タウンミーティング等,対話・協働の「形」はある程度あると思います.しかし,そこでなされた対話や協働の結果を,具体的に各ステークホルダーの納得感を伴って政策形成や知識創造に結び付けるかという方法論が全く確立していないのではないのでしょうか。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
49	3	2	-1	取組が十分に認識出来ていない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
50	3	1	-2	オールドメディアの劣化が酷い。(大学,部長・教授等クラス,男性)



Q604. (意見の変更理由)我が国において、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出が十分に行われていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	1	3	2	SDGsへの対応が認識されるようになってきた。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	2	3	1	良くなってきている傾向にあると思う。(大学,社長・学長等クラス,男性)
3	1	2	1	新しい活動を見かけるようになってきた(大学,部長・教授等クラス,男性)
4	1	2	1	以前よりは徐々に進んでいる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	熊本地震後,地域産業創出に努めている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
6	2	3	1	課題解決方の研究開発の取組が増えてきている(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
7	1	2	1	海外志向の社会実装が増えている(交通システム,農業システムなど)社会実装は国内だけではなく海外での社会実装もさらに容認すべき(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
8	4	5	1	環境対応(自動車産業)の進歩は目覚ましい(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
9	2	3	1	改善傾向にはある(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
10	3	4	1	分野によって状況は異なる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
11	3	4	1	水の環境資源の改変は期待したい。災害救助チームの行動のすばらしさを,最新設備での支援。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
12	2	3	1	内燃機関の効率向上をめざしたSIPなどは一定の成果を上げたとはいえ,国家プロジェクトでなければならなかった理由がわからない。(民間企業等,その他,男性)
13	4	5	1	競争的資金が掲げるテーマに研究者が敏感になっているので,このテーマ設定で誘導できている。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	3	3	0	開発に関してアイデア豊かな人材も見られるものの,基盤研究との繋がりへの工夫が必要。(大学,部長・教授等クラス,男性)
15	3	3	0	各国プロを中心に継続されている認識。ただ,産業界の方がその感度が高く,推進されている。特に,エネルギー,CO2低減,環境改善ニーズに対して。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	1	1	0	SDGsを意識した具体的なビジネス創出の動きが欧米等に比し遅いと感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	1	1	0	グローバルなニーズは,グローバルな活動をしていないと得られないし,その成果もグローバルで得られるものかと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
18	1	1	0	企業が自前の研究を放棄している。政府によるベンチャー支援が十分ではない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
19	1	1	0	あいかわらず,米国あるいは中国の動きに依存している。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
20	3	2	-1	海外各国と比較し,我が国での創出が充分とはとても言い難い。(大学,社長・学長等クラス,男性)
21	3	2	-1	不十分と感じる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
22	3	2	-1	我が国は課題先進国と自認している割には,海外で話題になっている課題・ニーズに偏りがちである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
23	2	1	-1	国にも民間にもあまり戦略性を感じられない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
24	2	1	-1	研究者がグローバルなニーズを具体的に把握することは難しく,国の強力な指導が必要であろう。(大学,部長・教授等クラス,男性)
25	3	2	-1	グローバルどころか足元での取り組みが不十分なことで原発事故や平成30年夏の多くの災害が起きたのではないかと。(大学,その他,男性)
26	3	2	-1	グローバル化に向かうリーダー育成が欠如(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
27	4	3	-1	災害時にこれほど劣悪な避難生活を強いる先進国はあるのか。前例に囚われずに(失敗を許容しながら)新技術を導入すべき(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
28	3	2	-1	創出がなされているが,十分ではないと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
29	2	1	-1	先取するような研究は評価されにくい。比較分析できる研究は評価されやすい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
30	4	3	-1	外圧がないと動かないのが日本人の特質と思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
31	3	2	-1	現実問題として自然災害への対応が停滞しているのでは。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)



Q605. (意見の変更理由)我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開に際して、官民が一体となった取組が十分に行われていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	1	5	4	国ごとの政治的な問題もあり交渉の難しさもあるなか、新幹線、高速鉄道、跳梁、ダム建設など頑張っていると思う。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
2	2	3	1	若干進みつつあるようには見受けられる。(大学、社長・学長等クラス、男性)
3	2	3	1	地域創成の一環で、地域の強みを世界に発信していこうという動きが多くなってきたと感じている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
4	3	4	1	水素などエネルギー分野では進展がある。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
5	1	2	1	JICA、JETROが動き始めているように思う(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
6	3	4	1	技術面では、海外展開のための取組みが強化されていると思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
7	2	3	1	事例としては、新幹線でしょうか？日本の社会インフラを、グローバルに展開できる可能性はあるように思います。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
8	3	3	0	偏りが見られる。自由な活動の基盤整備が求められよう。(大学、部長・教授等クラス、男性)
9	3	3	0	海外展開には資金がいる。本設問ではどのような資金を念頭においているのか、外務省では多様な対象に多様な資金を投じているが、一般にはODAくらいしか知られていないではないだろうか。(大学、その他、男性)
10	3	3	0	もう少し、官の支援が必要。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
11	1	1	0	日本の産学官連携は、日本人・日本企業だけのムラ社会。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
12	2	2	0	多くのケースで、民独自の動きになっている。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
13	3	2	-1	政策がらみの海外展開がまかり通りすぎている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
14	4	2	-2	不十分と感ずる。(大学、社長・学長等クラス、男性)
15	4	2	-2	中国を初めとする複数の国の抜き去り・追い上げを知る者としては、今の日本の大学を費用削減・緊縮財政の枷から解き放つ官民一体の取り組みこそ、焦眉の急である。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)

Q606. インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年		
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	6	41	45	24	4	0	3.7	2.6	3.8	4.9	3.8	3.7	3.7	-	-	-0.11	-0.04	-	-	-0.16			
大学等	5	4	33	41	22	4	0	104	3.8	5.0	4.0	3.9	3.8	-	-	-0.06	-0.11	-	-	-0.17			
公的研究機関	1	2	8	4	2	0	0	16	2.8	4.2	3.0	2.6	2.8	-	-	-0.37	0.12	-	-	-0.25			
イノベーション俯瞰グループ	89	52	199	165	67	12	2	497	3.2	4.6	3.3	3.3	3.2	-	-	-0.07	-0.09	-	-	-0.16			
大企業	25	11	67	59	20	5	0	162	3.3	4.6	3.6	3.5	3.3	-	-	-0.11	-0.19	-	-	-0.29			
中小企業・大学発ベンチャー	34	12	41	32	15	1	2	103	3.2	4.6	3.1	3.0	3.2	-	-	-0.10	0.15	-	-	0.05			
中小企業	23	5	19	16	8	1	1	50	3.4	4.7	3.4	3.3	3.4	-	-	-0.06	0.03	-	-	-0.04			
大学発ベンチャー	11	7	22	16	7	0	1	53	3.0	4.5	2.9	2.8	3.0	-	-	-0.13	0.23	-	-	0.10			
橋渡し等	30	29	91	74	32	6	0	232	3.1	4.5	3.3	3.2	3.1	-	-	-0.03	-0.14	-	-	-0.16			
男性	92	52	231	198	85	16	2	584	3.3	4.6	3.5	3.4	3.3	-	-	-0.10	-0.09	-	-	-0.19			
女性	3	6	9	12	6	0	0	33	3.1	4.7	2.6	3.1	3.1	-	-	0.51	0.01	-	-	0.52			
社長・役員、学長等クラス	46	24	126	112	41	6	1	310	3.2	4.6	3.3	3.2	3.2	-	-	-0.09	0.00	-	-	-0.08			
部長、教授クラス	27	27	80	77	36	8	1	229	3.3	4.7	3.5	3.4	3.3	-	-	-0.10	-0.12	-	-	-0.22			
主任研究員、准教授クラス	12	5	14	11	8	1	0	39	3.3	4.9	3.2	3.6	3.3	-	-	0.45	-0.36	-	-	0.09			
研究員、助教クラス	3	0	4	3	3	0	0	10	3.8	5.3	5.0	3.3	3.8	-	-	-1.67	0.47	-	-	-1.20			
その他	7	2	16	7	3	1	0	29	3.0	4.2	3.6	3.4	3.0	-	-	-0.20	-0.42	-	-	-0.62			
任期あり	36	17	113	102	44	6	1	283	3.4	4.7	3.5	3.3	3.4	-	-	-0.21	0.04	-	-	-0.17			
任期なし	59	41	127	108	47	10	1	334	3.2	4.6	3.3	3.3	3.2	-	-	0.04	-0.18	-	-	-0.14			
学長・機関長等	6	6	41	45	24	4	0	120	3.7	4.9	3.8	3.7	3.7	-	-	-0.11	-0.04	-	-	-0.16			
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
産学官連携活動あり(過去3年間)	63	42	165	141	59	10	2	419	3.2	4.6	3.3	3.3	3.2	-	-	0.03	-0.10	-	-	-0.07			
なし	26	10	34	24	8	2	0	78	2.9	4.3	3.6	3.0	2.9	-	-	-0.55	-0.08	-	-	-0.63			
大学・公的研究機関等 知財活用(企業等)	31	15	87	68	24	5	1	200	3.2	4.5	3.3	3.4	3.2	-	-	0.07	-0.17	-	-	-0.09			
なし・分からない	43	14	53	50	21	3	1	142	3.3	4.7	3.4	3.1	3.3	-	-	-0.28	0.17	-	-	-0.11			
全回答者(属性無回答を含む)	95	58	240	210	91	16	2	617	3.3	4.6	3.4	3.3	3.3	-	-	-0.07	-0.08	-	-	-0.15			

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q606. (意見の変更理由)インクルーシブ・イノベーション(新興国や途上国も包摂した形の持続可能なイノベーション)実現のために、我が国において新興国や途上国との人的ネットワークを強化する取組は十分に行われていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	3	4	1	新興国や途上国の留学生が増えているように思える。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	3	4	1	目立つ動きや取り組む研究者が見られ,そのような研究者への支援体制を適切に強化すべき。(大学,部長・教授等クラス,男性)
3	3	4	1	自分の関連分野(マイクロ波技術)についてはいろいろな努力が学会を中心に行われている(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
4	1	2	1	不十分ではあるが,取り組みはしていると考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
5	2	3	1	少しずつ改善されていると思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
6	1	2	1	一部の組織で実施されている為,参加している(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
7	1	2	1	企業は,新興国や途上国に進出しているので,そこでの,ネットワークはあるかと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	意識は上がっている(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
9	3	4	1	海外に研究機関を設けたり共同研究を行ったりする大学が増えている(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
10	2	2	0	例えばSATREPSに関して述べると,取り組んでいる大学には偏りがある.また,CGIAR研究機関に長期滞在している若手が減っている.国が十分な資金を投じていないのではないか。(大学,その他,男性)
11	3	3	0	もっともっと拡大する必要がある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
12	2	2	0	依然として不十分(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
13	2	2	0	中国,EUに大きく負けている.技術オリエンテッドだけでなく,経済利権のチェーンを同時に進めないとついてこない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
14	1	1	0	ダイバーシティ&インクルージョンは,まず国内で,女性や障害のある研究者の育成から始めるべきではないのか?(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
15	2	2	0	非常に重要な取り組みと評価する.これまでの価値基準とは異なる基準を設け,人材発掘をすすめるべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
16	1	1	0	民間レベルでのインド短期留学の話は知っている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
17	4	3	-1	最近,強化策が後退していると感じられる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
18	4	3	-1	アジア各国に比べ留学生に対する政府奨学金制度が相対的に弱くなっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
19	4	3	-1	日本のアプローチは長期的には相手国にとってプラスだと思うが,短期的には遅れをとることが多い。(大学,部長・教授等クラス,男性)
20	4	3	-1	最近強化策が後退していると感じられる。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
21	3	2	-1	取り組み状況,実績の報道が見当たらない.人的ネットワークの情報は公表されているのでしょうか?勉強不足かも知れませんが?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
22	2	1	-1	資金が十分でないため,十分に行われていない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
23	5	3	-2	途上国等の人的ネットワーク形成が一部の人材に偏っている。(大学,その他,女性)
24	4	1	-3	移民問題など浮き彫りになっている程度で策が明示されていないため(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)



Q607. 我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査																各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3 分点	各年の指数				指数の変化									
		1	2	3	4	5	6						2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年				
大学・公的研究機関グループ	2	16	39	47	20	2	0	124	3.2	3.6	4.7	3.7	3.4	3.2	-	-0.27	-0.20	-	-	-0.47						
大学等	2	10	33	44	18	2	0	107	3.4	3.7	4.7	3.8	3.6	3.4	-	-0.16	-0.18	-	-	-0.34						
公的研究機関	0	6	6	3	2	0	0	17	2.1	2.4	3.8	3.5	2.6	2.1	-	-0.84	-0.51	-	-	-1.36						
イノベーション俯瞰グループ	88	66	177	153	85	16	1	498	3.2	3.4	4.8	3.5	3.4	3.2	-	-0.05	-0.20	-	-	-0.25						
大企業	28	10	61	54	27	7	0	159	3.5	3.6	4.8	3.6	3.8	3.5	-	0.14	-0.27	-	-	-0.14						
中小企業・大学発ベンチャー	31	19	32	36	17	1	1	106	3.1	3.4	4.7	3.3	3.2	3.1	-	-0.16	-0.08	-	-	-0.23						
中小企業	19	8	20	14	11	1	0	54	3.1	3.3	4.8	3.1	3.0	3.1	-	-0.09	0.11	-	-	0.02						
大学発ベンチャー	12	11	12	22	6	0	1	52	3.0	3.6	4.5	3.5	3.3	3.0	-	-0.22	-0.24	-	-	-0.46						
橋渡し等	29	37	84	63	41	8	0	233	3.1	3.2	4.8	3.5	3.3	3.1	-	-0.15	-0.20	-	-	-0.35						
男性	85	77	207	191	99	16	1	591	3.2	3.4	4.7	3.5	3.4	3.2	-	-0.12	-0.19	-	-	-0.30						
女性	5	5	9	9	6	2	0	31	3.4	3.6	5.1	3.5	3.8	3.4	-	0.28	-0.41	-	-	-0.13						
社長・役員・学長等クラス	48	38	101	112	50	6	1	308	3.3	3.6	4.7	3.6	3.4	3.3	-	-0.18	-0.17	-	-	-0.35						
部長、教授クラス	25	34	87	63	38	9	0	231	3.1	3.2	4.7	3.4	3.3	3.1	-	-0.12	-0.14	-	-	-0.26						
主任研究員、准教授クラス	10	5	12	14	9	1	0	41	3.5	3.8	5.0	3.4	4.0	3.5	-	0.64	-0.59	-	-	0.05						
研究員、助教クラス	2	1	3	4	3	0	0	11	3.6	4.0	5.1	4.0	4.3	3.6	-	0.29	-0.65	-	-	-0.36						
その他	5	4	13	7	5	2	0	31	3.2	3.1	4.8	3.6	3.7	3.2	-	0.11	-0.47	-	-	-0.36						
任用あり	41	30	101	90	50	7	0	278	3.3	3.5	4.8	3.7	3.5	3.3	-	-0.15	-0.21	-	-	-0.36						
任用なし	49	52	115	110	55	11	1	344	3.2	3.4	4.7	3.4	3.4	3.2	-	-0.05	-0.19	-	-	-0.24						
学長・機関長等	2	16	39	47	20	2	0	124	3.2	3.6	4.7	3.7	3.4	3.2	-	-0.27	-0.20	-	-	-0.47						
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
産学官連携活動あり(過去3年間)	67	50	143	134	73	14	1	415	3.3	3.5	4.8	3.6	3.5	3.3	-	-0.01	-0.22	-	-	-0.23						
なし	21	16	34	19	12	2	0	83	2.8	2.9	4.4	3.2	2.9	2.8	-	-0.24	-0.13	-	-	-0.36						
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	36	17	67	69	37	5	0	195	3.4	3.7	4.8	3.6	3.6	3.4	-	0.02	-0.20	-	-	-0.18						
なし・分からない	42	21	54	43	19	5	1	143	3.1	3.2	4.6	3.3	3.2	3.1	-	-0.04	-0.11	-	-	-0.15						
全回答者(属性無回答を含む)	90	82	216	200	105	18	1	622	3.2	3.4	4.7	3.5	3.4	3.2	-	-0.09	-0.20	-	-	-0.29						

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q607. (意見の変更理由)我が国の政府に対する科学的助言の仕組みや体制は十分に機能していると思いますか。

	2017	2018	差	
1	1	3	2	SDGsへの対応が認識されるようになってきた。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	2	4	2	最近では,学会等で自然災害に対する取組みの強化が進んでいると思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
3	1	3	2	社会問題化したテーマに関しては,対応が見られる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
4	3	4	1	自分では努力しているが,全体としてはまだ不十分です。(大学,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	ドローンにおける官民協議会等ではそれなりに機能していると思う(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
6	4	5	1	総合学会会議など,国の政策をガイドしていると思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
7	2	3	1	例えば気候変動のメカニズムは解説されていても,市民が知りたいのは,それに基づいてとるべき行動様式である。日本人は曖昧な判断をするため,〇〇【企業名】が前もって強制的に運転中止を発言することで,企業の判断がつきやすく,それなりにメリットはあった。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
8	3	4	1	学会からの提案や働きかけが増えている(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
9	2	2	0	ただ,政府の動きが悪すぎる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	1	1	0	一部の有識者の意見で動いている印象があるが,必ずしも選ばれた有識者の意見が妥当ではない時もあるのでは。(大学,部長・教授等クラス,男性)
11	1	1	0	科学的助言は社会価値に基づいたものでなければ,専門家の単なる主張にすぎない。市場や生活者の視点を持つ専門家が求められる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
12	1	1	0	日本学術会議はここに挙げられた課題について各種提言等を熱心に行っているが,果たして国あるいは政治家はこれらを汲み取っているのか。とにかく以前に比べて科学者の言葉に耳を傾ける政治家が激減している。科学技術は票に繋がらないからか。(大学,その他,男性)
13	1	1	0	どのようなルートで助言できるのかが不明である。(大学,その他,男性)
14	1	1	0	助言をしても政府が実行しない(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
15	4	4	0	体制はあるが,政府省庁の縦割りもあり科学的助言に対する取組,実行力が不足しているのでは。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	6	6	0	今の政府は自分に都合の良い助言を受けるため,仕組みを乱造している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	1	1	0	学会が助言しても政府が聞く耳を持たない。各種審議会は無責任体制の象徴であり,廃止すべきだ(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
18	1	1	0	大手企業を中心とする産業界には,このような助言が行える人は,枯渇している。失われた20年を上手に歩んだ人たちなので,期待できない。ASEANなどから持ってくるのが良い。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
19	1	1	0	一部メディアの意図的な煽り報道に対して,日本学術会議等が何らかの声明を出せばいいと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
20	2	1	-1	研究者や研究題目に多様性が重要であることを認識していないのでは?(大学,部長・教授等クラス,男性)
21	4	3	-1	政府が,科学的な助言よりも財界からの要求に重きを置いている傾向が強まっている(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
22	2	1	-1	助言者の選択に工夫の余地がある(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
23	4	3	-1	寡聞にして本件に該当する情報に接していない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
24	4	3	-1	科学的な助言をしていても,それを取り上げる,さらには膨らませるという機能と意思がない。科学技術は票につながらないと考えられているのか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
25	2	1	-1	軍事研究に対する頑なな姿勢をはじめ,日本の学界は空想的理想に偏り,人類・世界の現実から逃避する姿勢が主流。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
26	2	1	-1	実際に機能しているのかどうか,成果がほとんど見えない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
27	3	2	-1	助言をする側と,受ける側,なれ合いの関係となっていないか?政策作成側の事前のシナリオ作りに問題が多い。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
28	4	3	-1	政府に説明するだけでなく,国民に向けても説明責任があるかと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
29	4	2	-2	総合科学技術・イノベーション会議の存在感が地盤沈下してきたように感じるから。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

Q608. 基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

回答者グループ	2018年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	9	43	34	31	0	0	117	3.5	2.5	3.7	5.1	3.8	3.6	3.5	-	-	-0.13	-0.15	-	-	-0.28		
大学等	7	35	33	29	0	0	102	3.7	2.6	3.9	5.2	3.9	3.9	3.7	-	-	0.00	-0.21	-	-	-0.21		
公的研究機関	2	4	8	1	2	0	15	2.1	1.6	2.4	3.2	3.1	2.3	2.1	-	-	-0.74	-0.18	-	-	-0.93		
イノベーション俯瞰グループ	144	51	143	144	81	22	1	442	3.5	2.4	3.6	4.9	3.8	3.6	3.5	-	-	-0.21	-0.13	-	-	-0.34	
大企業	47	5	47	52	26	10	0	140	3.8	2.7	3.9	5.1	4.1	4.0	3.8	-	-	-0.12	-0.16	-	-	-0.28	
中小企業・大学発ベンチャー	50	13	31	26	15	1	1	87	3.1	2.1	3.3	4.7	3.3	3.1	3.1	-	-	-0.28	0.09	-	-	-0.19	
中小企業	34	3	15	11	9	1	0	39	3.5	2.4	3.6	5.0	3.3	3.3	3.5	-	-	0.03	0.17	-	-	0.21	
大学発ベンチャー	16	10	16	15	6	0	1	48	2.9	1.9	3.1	4.4	3.4	2.9	2.9	-	-	-0.49	-0.02	-	-	-0.50	
橋渡し等	47	33	65	66	40	11	0	215	3.4	2.2	3.6	4.9	3.8	3.6	3.4	-	-	-0.25	-0.19	-	-	-0.45	
男性	145	56	175	172	108	19	1	531	3.5	2.4	3.7	5.0	3.8	3.6	3.5	-	-	-0.20	-0.13	-	-	-0.33	
女性	8	4	11	6	4	3	0	28	3.4	2.1	3.2	5.0	3.6	3.4	-	-	-0.02	-0.21	-	-	-0.23		
社長・役員・学長等クラス	72	26	105	94	52	6	1	284	3.4	2.4	3.5	4.8	3.7	3.5	3.4	-	-	-0.20	-0.14	-	-	-0.35	
部長・教授クラス	51	28	55	66	44	12	0	205	3.6	2.4	3.8	5.2	3.8	3.6	3.6	-	-	-0.15	-0.06	-	-	-0.22	
主任研究員・准教授クラス	18	1	12	9	9	2	0	33	3.9	2.7	4.0	5.5	4.4	4.3	3.9	-	-	-0.14	-0.36	-	-	-0.51	
研究員・助教クラス	3	1	2	3	4	0	0	10	4.0	2.9	4.4	5.6	5.0	4.3	4.0	-	-	-0.67	-0.33	-	-	-1.00	
その他	9	4	12	6	3	2	0	27	3.0	2.0	3.0	4.5	3.6	3.3	3.0	-	-	-0.37	-0.21	-	-	-0.58	
任期あり	63	19	99	78	56	4	0	256	3.4	2.4	3.5	4.9	3.9	3.6	3.4	-	-	-0.29	-0.21	-	-	-0.50	
任期なし	90	41	87	100	56	18	1	303	3.5	2.3	3.7	5.0	3.7	3.6	3.5	-	-	-0.12	-0.06	-	-	-0.18	
学長・機関長等	9	9	43	34	31	0	0	117	3.5	2.5	3.7	5.1	3.8	3.6	3.5	-	-	-0.13	-0.15	-	-	-0.28	
マネジメント実務	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
現場研究者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
国立大学等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第1グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第2グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第3グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
第4グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
理学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	108	40	119	123	72	19	1	374	3.5	2.4	3.7	5.0	3.9	3.7	3.5	-	-	-0.18	-0.14	-	-	-0.33	
なし	36	11	24	21	9	3	0	68	3.1	2.1	3.3	4.6	3.5	3.2	3.1	-	-	-0.30	-0.08	-	-	-0.38	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	53	14	61	60	34	9	0	178	3.6	2.5	3.7	5.0	3.9	3.9	3.6	-	-	0.02	-0.35	-	-	-0.33	
なし・分からない	68	11	32	43	22	8	1	117	3.8	2.6	3.9	5.1	3.8	3.5	3.8	-	-	-0.34	0.30	-	-	-0.04	
全回答者(属性無回答を含む)	153	60	186	178	112	22	1	559	3.5	2.4	3.6	5.0	3.8	3.6	3.5	-	-	-0.19	-0.13	-	-	-0.33	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q608. (意見の変更理由)基本計画の推進のため、必要な資源の確保や適切な資金配分等を行うための取組を、総合科学技術・イノベーション会議は十分に行っていると思いますか。

	2017	2018	差	
1	1	3	2	官民一体となって360° 考えて取り組んでいるかは疑問だが、イノベーション会議は、行われていると思います。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
2	2	3	1	少しずつ改善されていると思います。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
3	1	2	1	十分とは、言えない(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
4	2	3	1	IT,IOT,医療,環境の配分が優先している。それは実感としてわかるようになった。またその時の世相の影響も受ける。交通の自動化(飛ぶ自動車)の開発など、意外に面白いと思う。そのような議論は大いに期待したい。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
5	4	5	1	大学改革との連動が目を引いている(民間企業等、部長・教授等クラス、女性)
6	2	2	0	もっと若い世代を活用すべき(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
7	3	3	0	更なるリーダーシップに期待したい。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
8	6	6	0	意味のない配分を過剰に行っている(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
9	2	2	0	立案は定期的、随時行われているが、それぞれの達成度の評価とフィードバックが弱いように思う(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
10	1	1	0	高度成長後の勉強せずに大学を出、社内出世だけを考え冒険しないサラリーマン経営者は、害あって益無し。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
11	4	4	0	成果で判断すべきことかと。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
12	4	3	-1	内容が後退している。(大学、社長・学長等クラス、男性)
13	5	4	-1	総合科学技術・イノベーション会議の姿が、見えにくい。(大学、部長・教授等クラス、男性)
14	3	2	-1	近年の活動で、目標が明確に見えず、指導的役割が求められる。(大学、部長・教授等クラス、男性)
15	3	2	-1	CISTIの構成メンバーが産業界出身者に偏りすぎている。イノベーションに重点を置き過ぎである。アカデミアからの人材と半々の構成にしないと正しい科学政策の起案・推進は行えない。また、CISTI議員の2人が研究開発法人の理事長に就いている。利益相反にあたるのではないか。(大学、その他、男性)
16	2	1	-1	ほとんど形式化している。委員の選考が不透明であるため、政府の言いなりになっている。(大学、その他、男性)
17	4	3	-1	常勤議員が1名、それも科学技術そのものを専門とする人ではない方になったので、はっきりいって機能ダウンである。大学改革ばかりにクチを出すという印象がある。大学改革は重要であるが、科学技術振興と両輪である必要がある。非常勤の方には申し訳ないが、非常勤ではどうしても力を発揮できていない。各省庁にしてみればCISTIを骨抜きにするには良い方策であると感じる。(大学、第2G、社長・学長等クラス、男性)
18	4	3	-1	取組内容が後退している。(大学、第3G、社長・学長等クラス、男性)
19	2	1	-1	産業界の意見を重視しすぎる。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
20	3	2	-1	すぐに成果が得られることに傾注する傾向が強まっている(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
21	2	1	-1	結果としてポリシーは見えない(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
22	3	2	-1	CSTIが自前予算を確保して初めてPJ(SIP,ImPACT)を、CSTI自体が自力で管理運営できていない。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
23	4	2	-2	予算総額の確保、裾野の広い配分が必要である。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
24	5	2	-3	常勤議員の数が減り、十分には役割を果たしていないから。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
25	5	1	-4	司令塔機能として、ここ1年の衰退は残念ながら大きい。リーダーシップの欠如。そして、先見性のなさを感じる(欧米の後追い)。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)

Q609. 科学技術イノベーションの社会との関係深化と推進機能の強化の状況について、ご意見を自由に書きください

(601) 研究の細分化に伴い、社会リテラシーの低下が散見されるようになり、あまり対応策がとられていないように感じている。研究分野は部局による違いが大きい少なくとも医療領域においては、市民講演会、患者団体との公開ミーティングなどが積極的に行われており、社会との関わりの意識は近年とみに高まっている。(602) 個人情報保護法など、法制度の改革が盛んであるが、研究者側からするとなぜ改革が必要なのか、本当に必要な改革が成されているのか疑問が残る部分も多い。(603) 少なくとも医療領域においては、市民講演会、患者団体との公開ミーティングなどが積極的に行われており、社会との関わりの意識は近年とみに高まっている。(604) 一定の高い水準での研究ができていと思うが、先取りと言えるためには産学だけでなく官の意識改革が重要と考える。シーズとしては良いものを持っている。国際展開や標準化の際に負ける例が多いように思う。(605) 医療領域における官の海外展開意識が低すぎ

1 (606) 部分的に行われている。(607) 例えばエネルギー・原発問題、医療問題等について、マスコミ・世論の間違った部分はきちんと訂正して、国民生活をより良いものとする政策を進めるために必要な、科学的助言を理解できる人材が政府にほほいしない。科学的助言を示す仕組みも不十分だが、それを活かす仕組みがさらに不十分であるように感じている。一部のビッグ・プロフェッサーの声だけしか届いていないような気がする。(608) もっと広く浅く資金配分を行うべき。今の若者にとって、能力があっても将来が不安すぎて、研究者が全く魅力的な職種には成っていない。(609) いろいろな審議会の助言が末端にまで届いていない。いろいろなメッセージが非常にわかりにくく、何を言いたいのか、何を目指しているのか、明確でない。まずは、社会との関係性を深める、様々な事項を推進したいのであれば、わかり易い言葉でわかり易く一読して理解できる文章と論理構成が必要である。(大学、第1G、社長・学長等クラス、男性)

文系の方々が、専門に胡坐をかいて、科学技術の進歩についてこれていません。生物、物理、化学の最先端を知らずして、哲学、倫理、

2 経済は語れません。理系も、文系のことにはノータッチです。そもそも文系、理系と分けることは、社会問題そのものを考えた際にはナンセンスなので、そろそろこのような二分論はやめるべきです。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

RISTEXの活動では、文理融合を感じる企画もあるのですが、その結果を生かす対象である行政にエビデンスベースの行政の流れ

3 が感じられないので、むなしさが残るばかりです。善良な官僚による適切な判断無くしては、実現は難しいです。流れが変わってほしいです。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

私の係わる医療情報分野では、現在社会の関心が高いこともあり、多くのマスコミを中心とした取材、報道が繰り返し行われている。また、マスコミが専従の人物をあてている関係で、極めて冷静な報道が行われているように思われる。マスコミの人材も「科学」の一部であるので、こういう方々の教育、キャリアパスなどの議論も、国家として進めておくことが必要だと思われる。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

4

大学や各種学術組織の意見が立法府、行政府に反映しているとは思えない。日本学術会議だけでなく、主要な学会の意見を聴取するなど、政府は、世界の中での日本の研究と未来を把握し、行政に活かすための「博士レベルの人材によるコーディネータ制度」(米国では当たり前)の創設を希望する。(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

5

6 法人化以降、かなり改善されたと思っている。(大学、第1G、理学、部長・教授等クラス、男性)

文理融合的な活動が多くなっているのは事実だが、それによって得られる成果があまり見えてこない。一般社会とのつながりや社会

7 問題の解決という視点では、応用研究が目立ってしまう。基礎研究から応用研究まで幅広い知識の蓄積によって、将来的な社会の発展や余裕が得られることを、多様なステークホルダーが認識する必要がある。(大学、第1G、理学、部長・教授等クラス、男性)

私は最も純粋科学の原理主義が蔓延している大学・部局(〇〇大学理学部)で生まれ育ち、20年振りにそこに戻ってきた。研究に目的を持つことすら疚しいと思っている人が少なからずいる。私は、幾度か居場所を変えたが、一度も工学系に属したことはなく、一貫して理学畑を歩んできた。私は「目的基礎研究」の必要性を痛感している。純粋サイエンスを独善的に標榜するのは嫌いだ。往々にしてただらだとして研究をしているように見えてしまうからだ。元々純粋科学に憧れてこの大学に入学した。30歳代後半まで基礎科学を志向し、企業研究者を心の中で秘かに期待せずに、企業と共同研究することなど考えたことすらなかった。しかし、〇〇大学で助教授になり、ひょんなことから企業と共同研究することになった。結局、自分が井の中の蛙であることを思い知らされ、優秀な企業研究者から多くの刺激を受け、彼らとの熱心な議論を通して逆に自分の基礎研究が大きく進展した。「目的基礎研究」の重要性だ。自分の研究が社会で何かの役に立つのではと考えるだけでも、かえって基礎研究が進むものである。自分が行っている基礎研究が最終的に社会で役に立ったら、これほど研究者冥利に尽きるものはない。国立大学の活動は全て社会貢献である。税金である運営費交付金が賄われている以上、ステイクホルダーは社会と言える。最も大きな社会貢献は人材育成であり、1兆1千億円の運営費交付金を人材育成費と見なせば、国立大学の学生数は約60万人なので、学生1人当たり200万円弱の税金が支出されていることになる。〇大や〇大では年間300万円近くになり、博士課程まで進学すれば学部と大学院の9年間で2,700万円も投入されることになる。日本学術振興会の特別研究員DC1に採択されれば、研究費も合わせて合計3,700万円ほどになる。「こんなに校費が減らされたら自分の好きな研究が出来なくなる」というのは国民から教育の負託を受けている大学人としては誤りで、社会からすれば先生方の好き勝手な研究のために税金を払っているわけではないと言われ、国費支出の削減対象になる。「こんなに校費が減らされたら、日本の将来【続く】

8

を支える優秀な人材育成が出来ない」と言うべきであろう。勿論、教員と院生にはそれぞれ、「不良債権を発行しない」、「国の不良債権とならない」ことが求められる。大学における如何なる研究活動も社会貢献であり、たとえ純粋基礎研究であっても、最終的には社会に還元されるべきである。研究と教育は表裏一体で、大学院では研究を通して教育を行うことになるので、研究とは教育のソフトウェアでもある。したがって、教育ソフトウェアである研究は、世界最先端の秀でたものであるべきだと考える。突出した人材は大きな

8 研究ピークを作り、それが多方面に波及・展開する。目前の頭在化している課題を解決することも重要だが、たとえ遠回りだとしても日本の明るい将来への投資として、潜在的な問題を発掘し新しい現象や物質を発見できる、社会に有為な研究者を育成するべきではなからうか。そのために大学に、ゆとり時が流れ、個性と活気に満ちあふれ、アカデミックなあの「におい」を醸し出すキャンパスを取り戻さなくてはならない。(大学、第1G、理学、部長・教授等クラス、男性)

産業で生み出される製品には大学の研究・イノベーションが関わっているものも多いと思うが、産業にメリットがなければそのこと前面

9 に出すことは少ないと思う。産業がお金を出す以上は、黙っている権利も有しているので仕方ない。(大学、第1G、理学、主任研究員・准教授クラス、男性)

自動運転や介護ロボットなど、今後市民の生活を大きく変える可能性のある技術が多数出現しているが、倫理や法制度、責任問題などについての議論は全く十分でない。他国と比べて非常に遅れている。高齢化社会において、科学技術がどのような役割を果たすことができるか、ということの議論も非常に乏しいと感じる。(大学、第1G、理学、主任研究員・准教授クラス、女性)

10

- 11 EM菌や水素水などの,エセ科学や民間療法などに対して,マスメディアやSNSによる間違っただけの情報の拡散を防止するため,大学の教員が「科学的なデータを示して」正しい情報を発信する必要がある。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 12 昨今,高等教育で文系教科の比率を下げることを意図するような発言が政府関係者から多いように思います。高等教育において教養を身につけることは社会の成熟に必要なことであり,文系教科を軽視してよいはずはありません。社会に対してインパクトを持つような人材の中で,近視眼的な利益や不寛容な価値観に左右されるような人が多くを占めるようになれば,結果的に社会の不公平が増大してその崩壊に至る例は歴史上多くみられます。科学技術を発展させるために政策的に重点化項目を設定することは重要であると思いますが,あまりに偏った学問支援体制は,教育や研究の視野を狭くするという危惧を強く感じます。特定の分野の重点化が他分野の軽視や基盤的な予算の削減と同義にならないようにすることが大切だと思います。一方,過去の反省として学問がその分野の中だけを見てきたことがあります。基盤的な研究支援を多くするという点では過去の状態に少し近づける政策であるようにも見えますが,同時に,大学や研究機関が社会に対して積極的に発信していくことを誘導するような施策を行うことで,少し良い方向に向かうのではないかと考えます。学生も教員の活動状態を見ているので,基盤的な体制を弱くする一方で,大学や研究機関の義務だけを増やすことは優秀な学生が学問にかかわる動機を弱める可能性が高いと思います。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 13 いわゆるtransdisciplinaryな研究の重要性の認識の浸透と,実践は増えつつあるのではないかと。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 14 前回も同様な回答をしたかもしれないが,研究者は基本的にステークホルダーを想定して研究をする。しかし,その想定は限られている(例えばシンクタンクのような調査する資金も時間もない)。倫理的なことに関しては,基本的な学習環境は充実しているが,社会の進化に対応する仕組みはたぶんどこにもない。つまり,この質問自体が,かなり難しい。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 15 状況はゆっくり変わっているが,研究者-行政-市民間の対話はまだまだ足りない。そもそも政府の企図する科学技術政策が,市民には全く理解されていなし,研究者の多くも,なぜそのような政策が決定されていくのかのプロセスすら理解できていない。政府,財界のコミュニティと学術のコミュニティの間にある「科学」に対する認識のズレをすこしでも縮める努力を積極的にやっていくべき。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 16 このような取り組みは大切だと思うが,自分も含めてインセンティブがないと始められないので,継続の科研費を持つ研究者に対して,付加的に,自然科学系と人文系の連携プログラムを作ってみるのも一案と考える。(科研費の国際共同研究加速基金と同様な仕組み)(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 17 人文社会系の方の取り組みが社会に還元されている例があれば,もっとアピールしてロールモデルを確立していったらいいと思います。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 18 多様なステークホルダーの「代表者」を集める会合であれば従来と何も変わらないのではないかと。実際にどのような取り組みが行われているのか見えてこない。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 19 社会の科学リテラシーを高める必要がある。そのためには質の高いサイエンスコミュニケーションが求められる。現在の日本のサイエンスコミュニケーションは弱い。既存のサイエンスコミュニケーションは個人の趣味のようなものでバイアスが大きいので,国が主導するサイエンスコミュニケーションが必要である。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 20 もう十分だと思います(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 21 広い分野についての科学技術に精通して,それを繋げるメカニズムやネットワークが不足している。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 22 科学技術の情報発信側(マスコミ,官庁)にも問題はあろうと思う。具体的には,研究者が言ったそのままの発信をするなら,それはあまり意味はない。社会に対してわかりやすく説明することは重要だが,それを研究者だけに求めるのは難しい。それができる研究者もいるが,ほとんどはそんなに器用ではない。これらは博士号を持った人間の流動性が高まり,もっと情報発信側にそのような専門知識を持った人間が増えることで徐々に解決できる問題であるが現状そうはなっていない。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 23 イノベーション創出に向けた努力は一定程度進められていると考える。しかし,将来のイノベーション創出を担う基礎研究への配慮には欠けていると言わざるを得ない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 24 本年9月の内閣府科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合資料に提出された科学技術指標2018においては,大学院生割合の減少,人社会大学院生の少なさなどが指摘されており,科学技術が社会との関係を深化させているとは言えない。専門性を有する人材の社会での処遇と活用を促す政策の強化が必要である。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 25 人文・社会科学および自然科学の連携が不足しており,そのような交流を草の根から促す資金を伴った施策を期待したい。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 26 日本人の多くが大学卒業以降ろくに新しい勉強をせず,理系は文系の勉強をせず,文系は理系の勉強をしていないため,適切な判断をするためのバックグラウンドを持っていない素人が集まって素人考えで色々なことを決めていたためうまくいかなかった(大学,第2G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 27 科学技術の成果と社会との関係や推進機能の強化,という観点では,世間的にはどうしても短期的な利益との関係が重視される傾向が強いと感じられる。例えば,人類共通の知識体系の強化に資する基礎研究では,その価値をなかなか国民の大多数に認めてもらえない。国民の意識や世論形成にはメディアによるものが大きい。多くのプログラムは企業スポンサーによる利益誘導に従った(逆らわない)形で番組が形成されていることが多く,またメディアの受け手側についてもこの状況に慣らされている。大多数の国民(社会の構成員)が,言葉は悪いが「愚民化」されている状況では,長期的視野に立ったイノベティブな研究に対して,その意義を説明するのは至難の業である。広く国民に教養水準の底上げを行っていくことで,イノベーションの種となる基礎的な研究が活発に行われる土壌が形成されるような政策を望む。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 28 科学技術イノベーションが経済成長の脈絡で語られている印象が強く違和感を覚える。例えば、SDGsのような世界的課題の解決を目指すための科学技術イノベーション政策を打ち出して欲しい。SDGsに関連する取組は一般社会からの理解と支持が得られ易いと考え。また理系と文系を問わない融合領域の取組が不可欠なので、次世代を担う若手の人材育成の視点からも重要だと言える。(大学,第2G,理学,その他,男性)
- 29 社会的インパクトとはある意味でマスコミ受けであり、本来の科学技術イノベーションとは若干異なると思う。しかし、国民の理解は重要であるので、伝えるための努力・広報活動が重要であろう。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 30 例えば、物理学や医学などのノーベル賞の受賞内容を、社会や一般市民の理解を助けるために、マスコミなどが単純化して報道しようとする気持ちはわからなくもないが、単純化することによって本質が伝わらない、あるいは誤って伝わる可能性がある。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 31 メディアの方も、もう少し国内外の状況を自ら勉強していただきたい。国民の皆さんには、科学技術が果たしている役割を理解した上で、偏った報道に同調しない目を持ってもらいたい。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 32 これはすでに30年くらい前(学生の頃)から感じていたことですが、日本の社会は科学技術の進歩に対して関心が低くリスペクトもしていないように思います。例えば、ノーベル賞について言うと、受賞者に日本人が含まれていれば大々的に報道しますが、そうでなければ一体どのような業績に対してノーベル賞が出されたのかすらほとんど報道されません。これだけ日本人のノーベル賞受賞を賞賛するのでしたら科学の進歩自体にもっと興味を持ってほしいと思います。マスコミにもっと科学的なバックグラウンドを持った人材が輩出されればこの事態は少しは改善されるかもしれません。また、科学技術の進歩に応じた政策形成を考えると、教授クラスの経験をもつ議員を国会に送り込む必要があると感じます。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 33 コンプライアンスを過剰に気にしすぎて、メディア露出が、旧帝大を中心に少ないように思える。もっと、オープンにすべき。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 34 官民の間の隔たりは大きいと思う。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 35 生命倫理に関連する研究の進展は多くあるが、法整備が連動して進められなければ研究成果が実用化されるまでに時間を要することになる。国際競争力を高めていくためにも、科学技術イノベーションがより迅速かつ適切に社会に取り入れられるような体制が確立されることを期待する。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 36 研究者の時間を削減しておいて異分野との交流は無理がある。異分野との交流は莫大な時間と労力を要する。また、会議が中央で行われるので、地方は置いていかれていると思う。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 37 科学技術が社会により認知され、社会的な関心事となるためには、研究職がより魅力的な職業であり、われわれの日々の生活と近い関係性にあることを周知する必要があると思われるが、現在研究の裾野は諸外国と比較しても非常に狭く、また待遇や社会的な立場も諸外国と比較して非常に劣っている。研究者の質・量両方の強化を行い、社会的な影響力を上げることが関係深化には不可欠である。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 38 相互の情報交換や研究を社会に深く知ってもらうための機会や、そのこと自体への一般社会の興味が不足しているように感じる。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 39 研究が専門にすぎて、メディアや国民に伝える場合、極端に簡素化しなければ伝わらない。そうすると、成果の誇張や拡大解釈が起こってしまう。社会の科学リテラシーをもっと向上させる必要がある。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 40 マスメディアや大学の各種イベントを通じて、最近はかつてないほど基礎研究や科学技術が日常生活や一般市民にアプローチしている。これも資金不足が招いたことで、研究時間を減らしている行為だが、社会との関係が進化すること自体は良いことだと思う。ただその半面、研究成果や目的のわかりやすさが求められすぎて、近視眼的な応用や実用化ばかりがもてはやされたり、求められたりする風潮が助長され、危険でもある。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 41 「社会側」からのフィードバックがない時点で、関係深化は難しい。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 42 研究者とメディアとの連携がもっと必要なのではないかと感じています。現状ではメディアは視聴者に寄って情報を易しく伝えることに傾倒しすぎているように思えます。研究・教育機関とメディアが連携し、視聴者が自ら考えることの重要性に気付けるように促していく努力が必要です。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 43 一般人や他分野研究者に向けて成果を公表することも大事だが、それを行うための時間、労力、資金の全てが無い中で行っており、研究者は疲弊している。そのような活動は研究者本来の仕事ではない。国が専門の人材を育成すべきである。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 44 原発事故などで科学技術と社会との関係の重要性は非常に増している。行政が風評を付度して非合理的な決定を行う、という事例が相次いだ。長い目で見れば、これは国民の科学技術に対する正しい理解を阻害する大きな要因になりうると考える。研究者側の努力も必要だが、政治・行政の科学技術に対する理解もさらに求められる。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 45 研究者と呼ばれる人たちの社会活動奉仕を義務づけでもしない限り、科学技術の社会実装は実現できないのではないだろうか。学生にばかり求めるのではなく、研究者自身も「社会の課題とは何かを発見」させ、「課題解決の方法を提示」させ、それを「実践し、評価される」という仕組みが必要である。でないと「研究(基礎研究)を進めるお金が足りない」ということだけを主張するのではないだろうか。研究者にも世間とは何かを知らしめるための試練を与えるべきである。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 46 テレビの力は強いので、○○○などで、一定の割合で、科学技術の番組、イノベーション技術の紹介などを取り上げるような規制があってもいいと思われる。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 47 社会に対する科学技術の発信は悪くないと思われるが、未だに社会全体の知識レベルが向上しないのは、まだ取組姿勢に甘さがあるからではないかと思われる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 48 分野による文化の違いがあるので、一元的にできることではない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 49 予算をとるため、研究体制的には文理融合はよく見られますが、成果は論文に留まる物が多く、社会的な評価の仕組みが追いついていないように思います。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 50 教育、科学のステークホルダーは未来社会という共通概念を持ち、長期間での方針が必要と感じる。(大学,第3G,農学,社長・学長等クラス,男性)
- 51 科学技術イノベーションを多様なステークホルダーに伝える仕事をした人に、資金・待遇を厚くする必要があろう。URLを削減してこちらにリソースを回しても良いと思う。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 52 イノベーション研究を推進するためには、全学で取り組むことが重要である。本学では、イノベーション研究機構が整備され、さらなる成果が期待出来る状況である。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 53 社会人が容易に大学で学びやすくする。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
- 54 科学技術のイノベーションには、異分野との学際研究が必須です。我が国でもっと推奨されるべき。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 55 基礎研究の推進によってイノベーションが生じるが、実際は短期的成果が求められている(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 56 研究者の社会リテラシー向上については、十分な取り組みがなされていると思いますが、その逆の「社会の研究リテラシー向上」がないと社会保障費純増の中で、科学技術の向上のための予算大幅増には至らないと強く感じています。そのために「大学教員が社会に語りかける機会を増やす」のも悪手だと思います。たとえば、公的機関が科学の発信を通してお金を稼ぎ、好待遇で若手人材を雇用、そうすると、大学等で独創的な研究には適性は低いが発信は得意という人材が流れる、というような循環が起こって「ブーム」を起こせるような仕掛けはないものでしょうか？(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 57 特にメディアがもっと専門知識を身に付けてほしい。STAP細胞のような異常な扇動的報道姿勢は控えて、また誤りであった場合に訂正、謝罪をしっかりとってもらわないと、地道に良い研究をしている人が端に追いやられてしまう。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 58 マスコミ・メディア報道と論文(特にオープンアクセスジャーナルに掲載された医学系論文)の内容に隔たりがあることが多く、科学技術分野でのマスコミ・メディア報道の正確性を評価し、評価内容を公開するシステムの構築が、産学連携研究の発展に貢献すると思う。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 59 当大学では、これまでに研究者の業績がマスコミ等で挙げられているが、多くは地方でのみ発信されるレベルである。しかし、内容的には日本中にアピールするに足るレベルのものも多く見受けられ、もっと大学から全国へ業績をアピールする貪欲な姿勢がほしいと思う。こういうことは、ひとつひとつ積み上げて実績を作り上げることが大切だと思うので、大学本部が各学部への成果の吸い上げをもっと積極的に行っていけばいいのでは、と思うことがある。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 60 大学は文部科学省との結びつきが強いが、文部科学省以外の省庁も積極的に大学の教育・研究に貢献してもよいのではないか。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 61 大学の機能強化・経営改革以前に、大学を活用すべく、官主導による民の意識改革を進行すべきである。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 62 科学技術イノベーションと言いながら、産業分野のみの意見が強調され、基礎科学研究の重要性は指摘されても、それに対するケアが十分ではない。このままいくと、ITのみが当面の間生き残るが、下支えする学問領域が徐々に戦力ダウンし、ITを活用するための資源が枯渇するという負のスパイラルに陥るものと懸念されて仕方ない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 63 日本には実質的な司令塔がない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 64 科学的助言について、より広範囲に意見を聴取し、特定のバイアスによる偏りを極力減らし、国の将来に最も資する形で取り入れていただきたい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 65 産学連携共同研究のガイドラインは、主として大企業、大規模大学が実行可能な内容であると思う。中小企業、小中規模大学の機能強化を示唆する提言、支援等も有益であると思われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 66 大学における教育の重要性を強く感じている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 67 イノベーションの創出は、発見やブレイクスルーのアイデアのみならず、ゴールに向けて進む強い意志と努力が不可欠だと思うが、近年は、その努力の担い手が減っているように思う。ラボスケール・机上の研究だけでなく、もうすこし、プロジェクト推進役を担える人材の確保・育成に向けた取り組みが必要だと考える。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 68 大学から社会への技術移転は、ベンチャー企業がその役割を担うべき。100年持つベンチャーを育成するのではなく、5年食い潰せる資本金を渡して、10年会社を存続させ、培ったノウハウを大企業に売り、ご破算にするシステムが必要。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 69 最近、科学技術イノベーションと社会との関係進化に係わる種々のイベントなどが開かれるようになっており、大変良いことであると思う。ただ、まだまだ、これらのイベント等に参加するのは元々興味を持っていた方々なので、今後、それ以外の方々をいかに巻き込んでいくかと言うことが重要になる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 70 いろいろな会議のメンバーを見ていると、固定されすぎているように思う。いかにも日本的。もっと広く意見を吸う仕組みが必要。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 71 オープンキャンパス等ではそこまでの深化は無理であると感じる。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)



- 72 研究者自身が社会に何を還元すべきかを考えていない現状を見ると、イノベーションとはいえ社会とは何の関係もない内向きの研究とその成果の創出を続けるだけになるであろう。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 73 多くの資金と労力を投入し,国際性を強化したが,成果に結びついていないかどうかはまだわからない。(大学,第4G,工学,社長・学長等クラス,女性)
- 74 地方大学の声が届いていないように見える。社会課題は地方にも多いのに,大学や外部資金の投入は都市部に偏っているように見受けられ,乖離が酷い。人口も重要な因子だが,それだけではなくカバーする面積や課題数に見合った配分をしていかないと,地方の疲弊はさらに深刻化する懸念がある。地方大/地方自治体と有力大学/国とが上下関係なく連携する仕組みが望ましい。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 75 科学技術イノベーションの社会との関係を深めるための推進機能についても,鋭意,専門職の採用により,取り組みが強化されつつある。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 76 科学技術イノベーションと社会を先端技術の社会実装とするのであれば,現場にそのような気運を感じたことはない。そう思って努力しても良いことはない。本当にそのような政策がなされているのか?それには「技術の社会実装は含まれない」ということでしょうか。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 77 科学技術に係わる各種市民参画型会議等をこれまでよりも一層推進すべきであると考えますが,研究者そのものに時間的・科学的余裕がなくなり,また各種メディアによる影響が分らないが,市民の科学技術に対する関心が低下していると感じられます。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 78 研究機関だけでなく企業とのコラボレーションなどを行うことで,日本独自のイノベーション創出のための新しい取り組みを行うことが必要だと感じています。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 79 人文・社会科学及び自然科学の連携を可能にするために,両方に通じたブリッジ的役割を果たす人材が不足しており,連携を試みる機会は多くなったが,連携の成果を出して社会に還元するまでにいたっていない。また,市民の科学的リテラシーは低いままであり,科学分野における生涯教育の大切さ,マスコミ(テレビ番組など)が科学的チェックを行える人材を自らの責任で配置するなどの工夫の必要性を感じる。(大学,第4G,農学,社長・学長等クラス,女性)
- 80 科学技術を専門でない人に伝えることは非常に難しい。メディアなども目を引く分野(視聴率が取れる,雑誌が売れる,など)の科学技術の紹介は行いが,生活から直接は見えない科学技術については紹介しないため,伝える機会も少ない。話はずれるが例えば豚コレラなど,発生した地域では問題となるが,離れた地域での一般人には何が大変なのかかわからないと思うが,日本全体の畜産業,輸入や輸出に与える影響など,取り上げるメディアはほとんどなく,日本が清浄であることで守られているもの,に気づくこともない。他の分野でも存在する問題と思われるが,このようなことは各分野で考え,情報を発信していく必要がある。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 81 積極的に外部や異部門へアピールできる人材が減っているように感じる。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 82 理系に偏る研究誘導はそのうち研究成果の限定要因になりうる。自由裁量で広く門戸を開ける予算配分と自由な時間があるからこそ,新たなイノベーションが生まれるのではないだろうか。そうでなければ予算誘導された分野でしか研究はすすまざる袋小路に陥るであろう。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 83 この設問に対しては,世の中をどう見てよいのか,どう判断してよいのかよく分かりません。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 84 研究費のほとんどが税金であるため説明責任はかならず必要だが,ステークホルダーを意識しすぎるあまり目先の成果を目指す研究を優遇する状況はいかがなものかと思えます。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 85 本学の状況は,科学技術イノベーションが創出される環境にない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 86 関係する会議等に呼ばれたことがないので,本件に関する所属大学での状況はよくわからない。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 87 まずは義務教育で「科学的な思考法,科学的手法」を身につけさせる必要があるように思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 88 まだ立ち遅れている部分であると思います。研究成果とその社会実装の間にはギャップがあり,そこを埋めるための取り組みを要するのではないのでしょうか。特に地方大学では企業等の参画も限られるため,積極的な情報発信等,マッチングなどが必要ではと考えます。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 89 Webなどの科学記事は色々と不正確なことがあり,それが研究者以外の人やその専門分野以外の研究者さえも惑わせていることが結構あるように思っています。研究者側が正確に情報を伝えても,一般人の感覚でちよつと表現を変えると,キャッチーだが意味が変わってしまったり,誤解を招くこともあるので,社会との関係強化はそんな深刻な問題へのアプローチも考えながら進めないといけないと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 90 幼児を含めた子供たちにもっと科学技術の創造を身近に感じられるような,国としての取り組みがあると良いと思います。小学生時代の工場見学は,わくわくしました。愛知県の○○○○○【企業名】と○○○【企業名】(○○○○○工場)は,今でも印象に残っています。大学時代(農学部)には,香川で酒蔵を見学させていただきました。あらゆる産業の現場を,テレビでもっと公開していただいたり,小中高校生への見学の機会をもっともっと増やしていただけたら,興味を持つ子が増えて,将来何かを生み出してくれるかもしれません。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 91 研究者が一般企業でのインターンシップなど一般企業で働くということを体験することで,科学技術の社会実装の具体性が増すと思います。現在,多くの研究者は会社員を経験しておらず,多くの会社員は研究者を経験していません。このため,研究者にとって「社会との関わり」をイメージすべからざる可能性があります。社会との関係深化と推進機能の強化には,研究者と会社員の相互流動が必要だと思います。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)

- 92 科学技術と社会の関係を多方面から見て、その将来設計を定期的に考える組織が機能する必要がある。ドイツが提唱するIndustry4  
には、社会のいろいろな問題を解決することへの展望が現れている。業界の思惑にとらわれず、健全な社会の発展を考えて何が、技術  
は何かできるかを見通して方針が決まるべきである。(大学、第4G、その他、男性)
- 93 研究者と社会との交流を深化させる前に、異なる分野の間での研究者交流を進化させるべき。これについても現在の仕事に加えてそ  
のような活動を行うことは時間的、労力的に不可能。よって、サバティカルなど時期を決めるなどして、異なる分野間の交流を積極的に  
支援するべき。(大学、大学共同利用機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 94 基礎科学が主なので社会との関係が遠くなりがちであるが一般公開等で関係を保つよう努力している(大学、大学共同利用機関、主  
任研究員・准教授クラス、男性)
- 95 人文・社会科学系と自然科学系の連携が強く強調されるあまり、基礎科学の地道な積み重ねが断絶しかけている様子も見受けられ  
る。プロジェクト設計は慎重に行う必要がある。(大学、大学共同利用機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 96 IoTやAIの技術展開のスピードに社会自体がついて来ていない部分も多く、社会構造のひずみが進んでいる状況にある。(大学、社  
長・学長等クラス、男性)
- 97 地方の意見が反映されていない状況の中で物事が進んでいる感が否めない。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 98 長期的な視野に立った基盤研究への資金供給が求められる状況となっている。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 99 オープンイノベーションというキーワードは浸透したが、具体的な成果に結びつくような例がやはり不足している。これには、教員を補  
完するような人材登用を図ること、教員自らが社会・産業課題に取り組む意識改革が必要である。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 100 そのような役割を担当できる人材育成が伴っていない。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 101 大学は消極的のように見える。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 102 本年9月の内閣府科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合資料に提出された  
科学技術指標2018においては、大学院生割合の減少、人社系大学院生の少なさなどが指摘されており、科学技術が社会との関係  
を深化させているとは言えない。専門性を有する人材の社会での処遇と活用を促す政策の強化が必要である。(大学、部長・教授等ク  
ラス、男性)
- 103 総合科学技術・イノベーション会議の議論状況等がなかなか伝わってこないのが現状である。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 104 エレクトロニクス関連企業が科学技術イノベーションを起こす場が減っている。企業の研究所を復活させてはどうか。(大学、部長・教  
授等クラス、男性)
- 105 情報産業分野では学術会議や各種審議会の動きが、欧米・中国に遅れをとっているように思われる。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 106 大学研究者が技術者倫理、サイエンスコミュニケーション、産業展示フェアへの参加、など殻を破る必要がある。(大学、部長・教授等  
クラス、男性)
- 107 自然災害分野では、科学的なイノベーションとは経済的な価値の創出というよりは、社会的な価値の創出であるが、この点が良く理解  
されていないと思います。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 108 英語化が遅すぎる。理系はすべて英語で教育すべき。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 109 FIRST, ImPACT, MoonShotなどの学を中心とした研究資金、SIPのように民を中心とした開発資金が継続していることは素晴らしいこと  
と思う。しかしながら、こういった枠組みを通じて、いわゆる大学や国の研究機関が、本当の意味で分野を超え、多様なステークホルダー  
との対話をおこない、グローバルに進める取り組みを進めることができていない。個の先生の取り組みで終わらせず、そういった活動を  
きちんとサポートすることが重要である。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 110 学術会議の意見の周知をより一層進めていただきたい。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 111 有名大学の名誉教授のような旬が終わった人材で会議をしても新しい改革は不可能(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 112 総合科学技術イノベーション会議の構成において、社会科学の観点から政策議論に関与するメンバーが質・量ともに脆弱に過ぎ  
る。また、今回ノーベル賞を受賞した本庶教授のように、自然科学系の背景を持つ議員には研究者として優れた人材が抜擢されてき  
た経緯があるが、研究者として優れた人材が科学技術政策についても卓説したパースペクティブを持っているとは限らない。  
「Society5.0」等という法螺話に類する幼稚な作文が、我が国の政策ビジョンとして掲げられている現状には寒気すら覚える。(大学、部  
長・教授等クラス、男性)
- 113 特に理系分野では専門職が多いので、社会との繋がりが薄い(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 114 変化の速さに議論が追いついていないと思います。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 115 民間の指導者に、科学技術に関する認識が不足している。(大学、部長・教授等クラス、男性)
- 116 いろいろな分野で、科学技術イノベーションと言われながら、なかなかモノになるものが出てきていないように思われる。これは、各種の  
施策の推進方法にも依るものの、実際には、関係者のマインドにも関わる問題だと思います。若手の活躍を支援する体制をきちんとする  
ことで、若手研究者のマインドを如何に、そちらに向けるか、にかかっていると思います。少し長い時間がかかるかもしれないので、今の  
近視眼的な評価や資金援助は、避けるべきだと思います。(大学、部長・教授等クラス、男性)

- 117 厚生労働省「特定臨床研究」の制度は、我が国の医療機器開発や人対象の基礎研究やイノベーションを著しく停滞させるのではないかと危惧します。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 118 資金と人材が不十分な中で、研究と教育に手一杯で、社会との関連を構築する余裕がないように感じます。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 119 中国ですら科学者の評価は基礎科学への寄与である。欧米においてはなおさらである。近年のわが国の科学政策は特異であることを為政者は認識して、舵を「役立つもの」「儲かるもの」偏重から「基礎的なもの」「将来の応用に資するもの」へと切り直すべきである。科学を志す青少年の夢を実現すべくサポートするのが大人の役目ではないか。(大学,その他,男性)
- 120 一般的に論じることは難しい。強制されてできるものではない。ある課題について共同研究体制ができれば、その中で社会との関係深化と推進機能の強化ははかられるはず。(大学,その他,男性)
- 121 総合科学技術・イノベーション会議の役割が不明確。司令塔機能(それにしては、人材不足)とファンディング機能(それにしては、審査機能不足)が混在している。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 122 現状は科学技術イノベーションが活性化されるような環境にないように思われる。これまで、ノーベル賞やフィールズ賞などの世界的な賞を受賞された研究者が大勢おられるので、その方々のご意見を十分くみ取って、文教施策に生かせるように、「日本の将来に向けた科学技術イノベーション政策提言会議」を組織して、具体的な素案を作っていたらどうか。(「リンダウ・ノーベル賞受賞者会議」があるが、これは、ノーベル賞受賞者が、若手研究者をエンカレッジするための組織であって、前記のような趣旨で存在するわけではない。)(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 123 今は、行政の長が口を挟みすぎる。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 124 総合科学技術・イノベーション会議の民間議員には基礎研究に関する洞察力が少なく、すぐに社会実装できる技術のみを重要視する傾向があることは問題である。(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
- 125 研究者の社会リテラシーに関し、特に、軍事利用(デュアルユース)の議論では、議論が深化することなく、議論自体が放置された(日本学術会議)様に思え残念である。議論を深化させることなく、感情論の応酬のみが行われるなど、問題が大きかった。これは1つの例に過ぎず、新しい技術の社会への適用等では時に大きな倫理的問題を生じさせる可能性がある。感情論に捕らわれない十分な議論が行われる場を継続的に確保すること、そこで行われる議論の透明性を確保することが重要である。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 126 研究者一人一人が、社会とのつながりを、少しは認識して発信に努めることが重要で、過度になり過ぎると、知的生産に影響を与えかねないので注意が必要に思います。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 127 文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 核融合科学技術委員会において取りまとめられた原型炉研究開発ロードマップについて(一次まとめ)では、社会連携活動の強化が課題として挙げられている。核融合コミュニティー全体でアウトリーチ活動を行うため、アウトリーチヘッドクォーターを設置すべく、コミュニティー内で議論を行っている。当部門でも科学コミュニケーターの採用を検討するなど、社会との関係深化を図っているところ。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 128 最近の研究者は、アウトリーチ活動をかなり頑張っていると思う。ときにそれは研究の時間を犠牲にしても行われている。しかし、機関としての取り組みやファンディング機関等からアウトリーチの要請があるとして、それは何を目的とするのか? 単に成果の普及・周知を目指すだけでは不十分で、そこにイノベーション創出や他の目的をうまく絡めるなどの工夫が必要だと思う。その意味で、目的を明確化したアウトリーチをファンディング機関も要請すべきではないか?(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 129 科学技術を利用する側の社会に対する説明が重要な状況。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 130 小学生の将来なりたい職業の上位に研究者が来ている状況で、成長過程で失望させないように、科学のすばらしさをアピールする場を増やす。加えて、博士号取得者のキャリアパス(研究以外の職、若いうちにマネージメントをするなど)への意識を高めるような仕組みを作る。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 131 まず人に興味がない科学技術者の再教育が必要。人に関わるのが嫌で理系に行く時代ではない。一方で理系にだけ興味があり才能を示すという偏ったエッジの効いた人材はそれはそれで周りに数名付けても意味があるのであれば活かすべき。大学時代の専門を30年間にわたって変化無く、やれば給料がもらえる時代は終わっていて、それへの対応(本人のマインドセットと周囲の環境、施策)が不十分。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 132 国民に正しく理解していただくのは、科学リテラシーの向上、興味の向上など長期的な視点での政策が必要だと思います。短期に成果を求めず(大幅な制度見直し)教育から変えていかなければいけないと思われまます。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 133 科学技術の成果の事業化は我が国の経済と国際社会での地位向上に非常に重要である。特に、大会社ではなく、実の事業の成功者が研究者の中に非常に乏しく、積極的に成功事例を作ること、成功者が支援者に移行するシステムが必要に思われる。JSTのあるプロジェクトでは、ご自分が社会実装の経験がない人が、単に社会科学者を学問で修めた人が社会実装の担当になっており、こうした人の配置では、産業を作ることができない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 134 むしろイノベーションを強調しすぎること、イノベーションに結びつく基礎研究を阻害する危険を認識すべきだと思います。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 135 科学技術が風評に負けてはいけません。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 136 ・CSTIの機能は抜本的な見直しが必要と思う。総合性もなく、科学技術全体や研究現場を捉える力も無いように感じる。短期的なイノベーション重視で、産業界への開発資金の蛇口のようにも見える。自分でファンディングを行い、そのマネージメントに多くの時間を割くなど、全くおかしなことにもなっている。長期的な視点を持ち、将来の科学技術、ひいては我が国が将来に亘ってどのような強みを持つておくべきかなど、真剣に考えることが必要と思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

- 137 現場で活躍する(活躍していなくても)研究者をより社会と結びつける機会をもっと増やした方が研究者のモチベーションの向上にもつながるし、研究に対する社会の理解がもっと進むと考えます。サイエンスカフェは一つの良い例ですし、中学校、高校、大学での自分の研究分野を紹介する出張授業を行う機会も業績の一つにしてもよいと思います。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 138 原子力の分野は特に社会とのかかわりに関する取り組みが重要である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 139 ノーベル賞をきっかけに基礎研究の重要性が認識され始めているが、それを盾に研究者自身が自由気ままに研究をすることをよしとするのではなく、社会との関係も認識しつつ、自らの研究成果をわかりやすく説明する義務のあることを、全ての研究者が認識すべきである。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 140 イノベーションは、基礎研究体力があつてこそ実現されるもの。基礎体力もないのに、金メダルは取れません。本当の基礎研究にどれくらい資金が投入されているのか統計をとってほしい。研究者が基礎研究に費やす時間の実態を明らかにしてほしい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 141 科学技術即ちイノベーションではないことにJSTは理解を深めるべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 142 多様なステークホルダーによる会議で関係が深化していくのか疑問。技術を体験する機会を増やす取り組みを進める方が理解が深まり重要なのでは？また、無駄に危機感をあおるような報道をするメディアに対する教育も必要かなと思う。(内容を取り締まるという意味ではなく、わかっていないメディアがいれば地道に教育するという意味)(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 143 科学の構造を理解する取り組みが必要(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 144 インターネットの登場によって、それまでは極々マイノリティで時間的・空間的に極めて限られたコミュニティの中でのみ通用した価値観が、現実にも社会的影響を及ぼしうようになったと思います。こうした社会の中で、科学技術イノベーションをどのように社会に還元すべきか、どのような基準でそこに税金を投入すべきか、そもそも何を以て科学技術イノベーションと定義するかが非常に難しい時代だと思います。有る提案に対し、1億2千万人のほぼ全国民が賛成でも、一人が声高に反対すればそれは採用されないというような極めて異常な事例も絵空事ではないです。問題をより一般化して、「ある公的な事柄に対する採否をどのように決定するか」ということについて、一度しっかり整理していく必要があると思います。日本によくある「阿吽の呼吸」等と言っている場合ではないと思います。このままでは科学技術立国の土台が崩壊してしまうと危惧しております。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 145 研究成果を社会に還元することは大変重要だと理解しています。しかしながら、昨今は、アウトカムばかりに重きが行きすぎてはいませんか？研究所・大学はアウトカムの視点は大事だと思います。しかし、それは広報などのアウトカム専門の部署で担うシステムが欲しい。現在は、研究者にアウトカムへの貢献が求められており、その弊害が出てきているように思います。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
- 146 自分の活動の範囲において、人文・社会科学と自然科学との連携事例自体は増えていないが、人文・社会科学の先生方から何が出るかの相談等が増えている。意識の変わりを実感しており、事例自体の増加へと繋がるものと考えている。(公的研究機関,その他,男性)
- 147 科学技術の創出においては研究者の考える力が必要不可欠であるが、現状の研究費配分や研究体制は逆に研究者に考えさせずに、国の求めた研究指針にあわせた結果をだすことに目的が向かってしまっている。研究費を取りまとめる主要な研究者でさえも原因と結果の相関だけに着目し、その現象の本質を求める基礎的な考え方ができていないことに国内の研究体制の危機感さえ感じる。技術が産業界で利用されるにしても国内では海外で成熟した技術のみ盛り上がる傾向にある。各々の産業界に必要な技術は本来は成熟していない段階で試せることが世界で主導していくためには必要と考えるが、技術の表面的な結果のみに目が向き、その技術の本質を産業界および国でさえも見極められないため、他国と連携しても生かされず、途中で頓挫することが多い。必ずしも海外の技術が良いわけではないので、社会に普及させるべき技術であるかをチームの流れを重視するのではなく、現象と技術と応用の関係をビッグデータのような過去のデータの統計重視ではなく、関係の仕組みとして捉えることができる国と産業界と社会の連携が必要と考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 148 イノベーションという言葉が先行しており、Society5.0などという海外にも理解されない漠然とした提案は、もっと具体的な内容を付加すべきである。海外からの問い合わせが多い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 149 この強化のためには、是非内閣府を中心とした府省連携の抜本的な強化、連携での実行力の強化策を実施するべきではないか、日本社会における現状及び将来に向けてのニーズ対応や課題解決には、一つの府省では十分ではなく、連携必須と思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 150 各界代表からなる政府・地方自治体の会議が多く存在するが、なにがしらかの偏りが避けられなかったとの現実を知る(経験を含む)者としては忸怩たる思いがある。国民の声を、現実的な負担で掬い上げ、科学技術イノベーションに反映させる方策を思いつかない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 151 日本の原子力産業界が〇〇・〇〇〇という政治家主導で始まり今日に至った愚が、「推進機能強化」の下で相変わらず続いている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 152 日本は、イノベーション教育が非常に遅れている。グループなり個人なり、イノベーションを出来る人材に教育しないと目的と手段が混同したまま何も残らない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 153 本当に必要なところに資源、資金の配分がなされるシステムが必要と思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 154 例えば、建設分野では土木系技術の社会実装は、i-construction等を通じて進展しているが、建築系分野での実装は遅れているように思われる。防災分野の技術など、南海トラフ巨大地震等に備えて、法的誘導を含めて推進する必要がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

- 私自身、自動車関連産業に従事している身としては、100年に一度の変革を迎え、総合的な科学技術の向上なくしては、日本の産業の骨格が崩れる可能性があります。ものづくり大国から次のイノベーション立国として、生き残るためにも、更なる国としての支援及び官民一体となった取り組みが必達です。内閣府、文科省、経産省、環境省など各省庁だけでなく、日本全体で真のイノベーション実現のため官民一体となった取り組みを期待します。この一年でも、良くなっていると思いますが、それでもスピードが足りない。より良い次世代社会を構築するために、更なる推進機能の強化を期待します。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 155
- 156 ポイントはやはり学と官の人財も含めた交流、移動や派遣を活発にするような文化・環境を醸成することでしょうか。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 157 近年、スタートアップ企業と一般の企業とのマッチングなどが積極的に進められているが、大学と企業のマッチングへの取り組みが十分とは言えないと思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 158 「ものづくり立国」と言っていた時代は、まだ国の方向性と大学、企業の研究の方向性が合っていた。それが失われた今、日本として何を指すのか？を真剣に議論して、予算を集中投下すべき。アメリカや中国の真似をするよりも、ヨーロッパの小国の戦い方を参考にすべきか・・・？自らの強みを知り、深化、拡大する取り組みが必要。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 159 明治維新後や第2次世界大戦敗戦後の日本のような科学技術創造立国への強い意識と行動が無い。人口が減る日本という市場を相手には、科学技術イノベーションを創出する活動は生まれない。躍進する市場を睨んだ科学技術による解決策の事業化こそがイノベーションを生み、日本を強くする。日本の科学技術力に対する世界からの投資を呼び込むことが重要。結果的に外国資本に技術が買われることを技術流出と恐れるのは間違い。海外に買われるような技術を生み出す力、人材の維持・拡大こそが重要。今の日本の産学官連携は、日本ムラ社会の中での花見酒である。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 160 社会問題(課題)・国家予算や気候・災害に係る事項(要は、国民生活に密接したり社会不安を伴う課題)に関しては、その動きが見られる。言い換えれば、必要に迫られた為の見切り発車ではないか？ 課題の掘り起こしも必要ではないか。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 161 省庁間で似たようなプロジェクトが並列している。選択と集中をもっと進めるべき。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 162 イノベーションには多様なステークホルダーを巻き込んだ円卓会議がもっと多く行われることが必要と思います。科学技術イノベーションへの取組がなされていますが、変化、進化をまだ民間企業に伝わってきていない。(民間企業等、社長・学長等クラス、女性)
- 163 社会全体でイノベーションを推進するための体制が整っているとはいえない。LivingLabのような、市民を巻き込んだ研究開発体制は、日本には存在しないと思う。(民間企業等、社長・学長等クラス、女性)
- 164 科学技術の進歩が、社会に及ぼす影響は大きくなってきています。また、科学技術イノベーションは、日本国内に留まらず、海外の影響も大きく受けることとなります。目の前の事を処理していると振り回されるだけなので、どのような社会を目指していくか、少し先の未来について、社会的なコンセンサスを得ておくことも重要な活動のように思います。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 165 産学官のアピールを最近よく耳にします。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 166 問いは直接関係が無いかも知れないが、一般への研究成果の公表に関してはもう少し工夫が必要な様に思う。例えば、今回のノーベル賞受賞に関して、マスコミの解説員なる人物が、したり顔で成果を説明しているが、どうひいき目に見ても本質的な内容を理解していないので、うわつらの解説にしかたっておらず、また、一般向けであるにもかかわらず、難解な内容を詳らかにすることの要否も判断出来ていない、それが社会との窓口になっているのは少々滑稽である。これらに象徴されるような事象は極力排除しつつ、本質を如何に平易に解説、また、研究(資金等も含め)がどのように生まれ、どのように社会へ直結した恩恵に結びついているか、などもう少し積極的に発信することで、研究への社会の理解と協力が今以上に期待出来る素地が出来ると考えている。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 167 さまざまな活動を通じて、科学技術の重要性をもっと社会に認知してもらうよう産官学が行動することが重要、科学技術イノベーションを生み出す素地作りには必須と考える。社会に理解なくして、特に国の資金活用はままならない。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 168 研究者の社会リテラシーに関しては、学術領域によって千差万別である。医学領域では多くの研究者が社会リテラシーを保有している一方、理学領域の研究者では欠落しているケースが散見される。現在、サイバー空間の活用に関して大きな技術革新とイノベーションが起ころうとしており、理学や工学の研究者には高い社会リテラシーが求められる。その観点から見た場合、必須であるリベラルアーツ教育は、日本では欧米に比べて短期間でかつ脆弱であると言わざるを得ない。明治維新後、欧米列強に追いつくべく彼らのリベラルアーツ重視の教育方針を輸入して旧制高等学校の制度を作ったが、戦後は決められた手順に従って大量生産する産業モデルへ最適化する形で、リベラルアーツ教育より専門教育に重点が移ったと認識している。2018年の日本は、従来のすりあわせ型大量生産モデルからの脱却が今後の発展の最低条件であり、明治の変革期と同等な過渡期にある。従って、欧米での大学教育同様、リベラルアーツ教育を重視したカリキュラムへの回帰を検討の一つとされることをご提案したい。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 169 科学技術イノベーションと呼ぶからには、社会との関係を見逃すことができないが、その関係進化による社会実装事例が増えつつあると思われる。特に人工知能やIoTといった広い社会課題解決に適用する技術によって、その発展が大いに期待される。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 170 円卓会議などが有用とは思えない。イノベーションには取り組む人の熱意と時間と能力が必要であり、取り組む人を広く浅くでも多くの人が消極的にでも認めて支援することが必要。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 171 今後はより社会問題、国民の問題や関心に結びつくイノベーションが求められてくるが、その目の付け所は一部のIT企業やベンチャーが長けていると感じる。大きな枠組みで推進するには組織の枠が邪魔をし、イノベーションが起きにくくなっているのではないかと感じる。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 172 取り組み自体は行われていることを認識していますが、民間企業の立場からはまだ十分に効果が出ているとは認識できておりません。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 173 高度技術社会である現代は社会リテラシーは研究者だけでなく社会人全体にかかわる問題だと思います。これからを担う世代に対して、高等教育時から産学官で協力してシステムティックに教育していくべきだと思います。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)

- 
- 174 例えば大学の研究機関が、論理上可能な交通渋滞の自動化・緩和の実検証のため、実際の高速道路でのテストを行ったケースがあると聞いた。関係各所(警察など含む)に対して相当な準備と合意のステップを得ながら、見事に実テストを実現し、理論通りの結果が出たと聞いた時には、社会もなかなかやるな！と驚いた。渋滞緩和のヒントは、アリの振る舞いからヒントを得たと聞いた時、科学技術が社会に対して見事につながった瞬間だと思った。しかし社会の法整備上、または現実的に実験ができない場合、人工知能同士で仮想シミュレーションさせて、実施実験よりも数百倍多いケース・スタディを作成したほうが効率良い。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 
- 175 日本学術会議は軍事に関する研究について、少なくとも拒否的の反応を示すのは止めてほしいと思います。日本の現状をしっかりと認識して、日本のことを第一に考えて活動してほしいと思います。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 
- 176 科学技術イノベーションにおいて、分かりやすいもの(自動運転技術など)は認知度も高く、社会との関係は深化しているといえる。しかしながら、社会基盤を支える基幹産業分野等では社会との関係深化は十分とは言えない。当該分野に携わる研究者そのものの減少は大きな課題と言える。基礎・基盤研究にもしっかりと焦点を当て、学の連携や研究予算を配分する施策も必要と考える。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 
- 177 実際に何が実施されているかはわからない。世界に対する産業影響力、大学ランキングが落ちているという事実を分かるのみで、結果、国として競争力が落ちていることに対し対応できていいるのか？このアンケートも複数年実施ではあり、大学教授等で各設問を認知出来ている人はいるかも知れませんが、民間では全認知はなかなかないと思うがどうか。私も時間がなくいたいた意識調査報告書をほとんど確認できない状況であるが、もっと確認しておきたい。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 
- 178 重厚長大などの一部産業界・経産省的な観点ばかりが幅を利かせ、本当に日本に必要なイノベーションを阻害している。学術会議の提言は相変わらず政府に無視されるし、総合科学技術・イノベーション会議も権能がむしろ縮小し、司令塔機能を喪失した。現在の偏った資源分配を続けるぐらいならば、かつて悪平等と言われた校費研究費に戻し、外部資金を上乘せできるようにした方が研究開発が健全な方向に向かうかも知れない。(民間企業等、その他、男性)
- 
- 179 先端の技術革新の開発は、さまざまに行われている。その状況を、さらに国民に知らせていくべき。(民間企業等、その他、男性)
- 
- 180 イノベーションという用語についてのリテラシーはやや上がったが、政策担当者レベルでもまだ十分理解が進んでいないように感じる。そのため、やや的を外した施策を見受ける。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 
- 181 脱線するかもしれないが、今回の自民党がサマータイムを東京オリンピックに向けて導入するために検討したことには心底がっかりした。科学や工業のことをまったく理解しておらず、周りにブレインもいないことがはっきりした。(民間企業等、その他、男性)
-